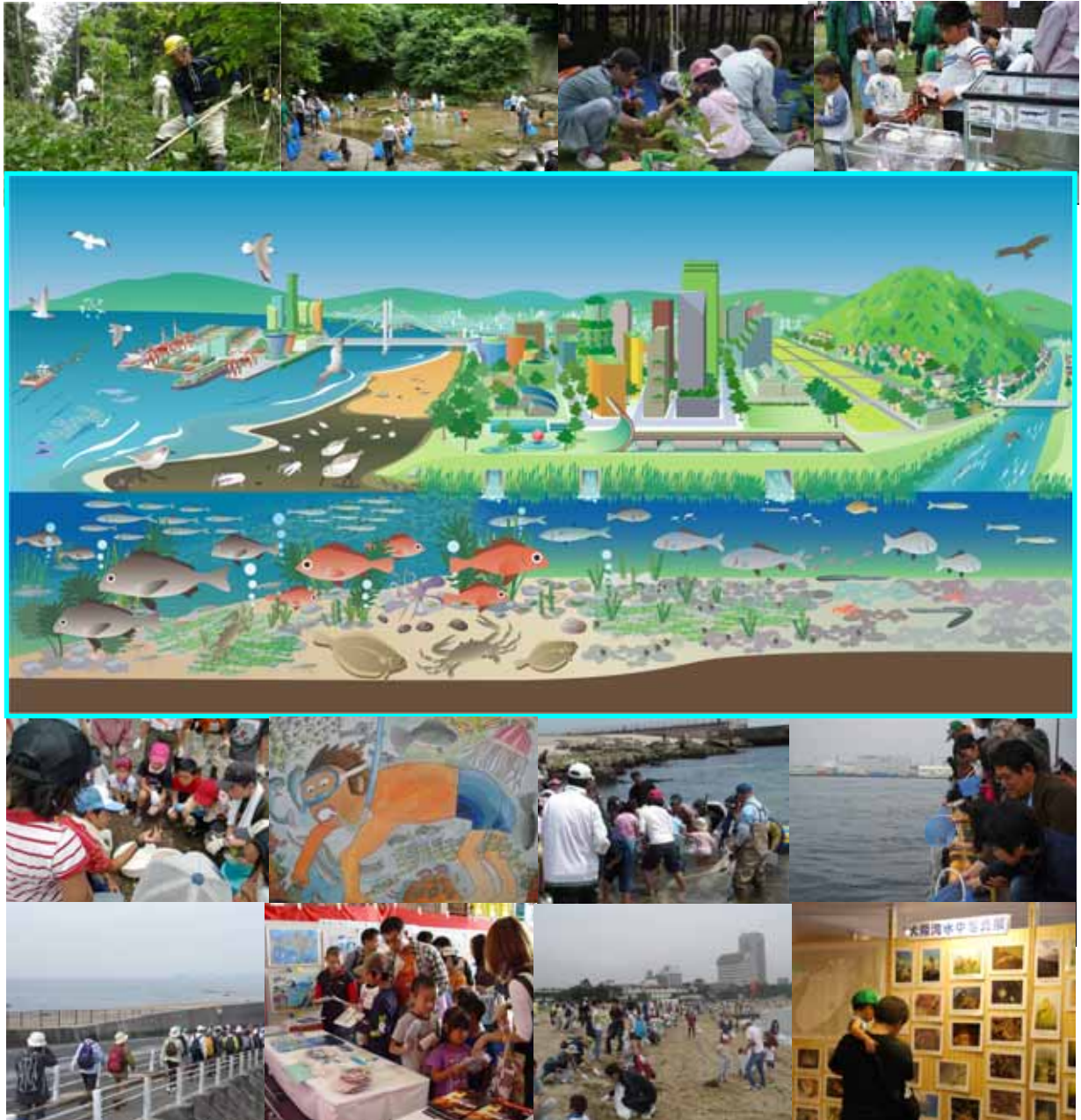


平成 2 2 年度 大阪湾再生行動計画の実施状況について



元気 UP！関西

平成 23 年 3 月 23 日
大阪湾再生推進会議

目 次

【大阪湾再生行動計画について】	1
1 . 目標の達成状況	6
2 . 行政機関による「大阪湾再生」の目標達成のための積極的な取り組み （平成 22 年度の主な取り組みの概要）	21
2-1 陸域負荷削減施策の推進	21
2-1-1 陸域負荷の削減に向けた施策	21
2-1-2 陸域負荷削減以外の施策	26
2-2 海域における環境改善対策の推進	27
2-2-1 水質の改善	27
2-2-2 多様な生物の生息・生育	28
2-2-3 親水性の向上	29
2-2-4 浮遊・漂着・海底ごみの削減	31
2-3 大阪湾再生のためのモニタリング	33
2-3-1 環境監視のためのモニタリング	33
2-3-2 市民参加によるモニタリング	35
2-3-3 大阪湾における汚濁機構をより詳細に解明するためのモニタリング	36
2-3-4 情報の共有化及び発信	37
2-4 アピールポイントにおける施策の推進	38
2-5 平成 22 年度の重点的な取り組みへの対応	39
3 . 市民参画による「大阪湾再生」の元気な取り組み（平成 22 年度の主な取り組み事例）	42
4 . 大阪湾再生に関する報道状況	46

【大阪湾再生行動計画について】

1) 経緯

平成 13 年 12 月：都市再生プロジェクトに「海の再生」を位置付け（都市再生プロジェクト（三次決定））

平成 15 年 6 月 26 日：都市再生本部会合において、「『大阪湾再生推進会議（仮称）』を設立して大阪湾再生に取り組む予定」とされた。

平成 15 年 7 月 28 日：関係省庁及び関係地方公共団体等^{注）}が「大阪湾再生推進会議」を設置

平成 16 年 3 月 26 日：「大阪湾再生行動計画」を策定

平成 16 年度以降、毎年の実施状況についてフォローアップを実施

平成 19 年度：行動計画策定後 3 か年の取組状況、目標の達成状況について「中間評価」を実施

平成 20 年度：中間評価結果を基に、「大阪湾再生行動計画（第 1 回改訂版）」の策定

2) 具体的な内容

大阪湾の水環境の現状を踏まえて、

- ・大阪湾再生に向けての湾全体の目標の設定
- ・湾奥部を中心とした重点エリア・アピールポイント等の設定
- ・目標達成のための陸域負荷削減、海域における環境改善対策及びモニタリング（監視）の実施

などの関連施策及びその計画的な推進について明らかにしたもの

3) 目標

～ 目 標 ～

森・川・海のネットワークを通じて、
美しく親しみやすい豊かな「魚庭（なにな）の海」を回復し、
京阪神都市圏として市民が誇りうる「大阪湾」を創出する



【大阪湾再生のイメージ】

^{注）}大阪湾再生推進会議：地域活性化統合本部事務局（旧：内閣官房都市再生本部事務局）国土交通省、農林水産省、経済産業省、環境省、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市、（財）大阪湾ベイエリア開発推進機構で構成（注：経済産業省は平成 17 年 3 月、堺市は平成 18 年 3 月から参画）

4) 具体的な目標及び指標

大阪湾の目標の達成状況を判断するため、大阪湾全体に共通する具体的な目標及び指標として、「多様な生物の生息・生育」と「人と海との関わり」の2つの観点から、それぞれに望ましい「質の改善」及び「場の整備」として以下のとおり設定した。

区 分		具体的な目標	指 標
多様な生物の生息・生育	質の改善	年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する	底層DO ・5mg/L以上(当面は3mg/L以上)
	場の整備	海域生物の生息に重要な場を再生する	干潟・藻場・浅場等の面積 砂浜・磯浜等の延長
人と海との関わり	質の改善	人々の親水活動に適した水質レベルを確保する	表層COD ・散策、展望：5mg/L以下 ・潮干狩り：3mg/L以下 ・海水浴：2mg/L以下 ・ダイビング：1mg/L以下
	場の整備	人々が快適に海にふれ合える場を再生する	自然的な海岸線延長
		臨海部での人々の憩いの場を確保する	臨海部における海に面した緑地の面積
		ごみのない美しい海岸線・海域を確保する	浮遊ごみ、漂着ごみ、海底ごみ

また、平成21年度からは、大阪湾再生による効果の把握に適したわかりやすい指標として、以下の7項目のアウトカム指標を設定し、評価の試行を行うこととした。

<p><多様な生物の生息・生育/生物に関する指標></p> <p>底生生物の生息状況</p> <p>海岸生物等の生息状況</p> <p><多様な生物の生息・生育/水質に関する指標></p> <p>透明度</p> <p>赤潮の状況</p> <p><人と海との関わり></p> <p>環境教育・学習の参加者数</p> <p>大阪湾に対するイメージ</p> <p>クリーンアップキャンペーンへの参加者数</p>
--

5) 計画期間

平成16年度から10年間

6) 平成 22 年度の主な取組状況

目標の達成状況

質の改善

- ・底層 D O は、年による変動はみられるものの、A 類型海域では全体的に若干の上昇傾向が窺えるほか、B 類型海域の神戸港沖(B-1)でも若干の上昇傾向が窺える。
- ・表層 C O D は、年による変動がみられるものの、行動計画期間内は全体的にほぼ横ばいに推移している。

場の整備

- ・藻場及び自然的な海岸線の整備が進捗
- ・ごみ回収活動を官民連携で実施

目標達成のための各種施策の実施状況

陸域負荷削減施策

- ・水質総量削減：事業場に対する総量規制基準の遵守の指導〔各府県〕 第 7 次総量削減の実施に向けて、総量規制基準の設定方法について中央環境審議会より答申がなされた〔環境省〕
- ・効率的・総合的な負荷削減：マザーレイク 2 1 計画による琵琶湖の総合保全〔滋賀県〕
- ・下水道事業：2 処理場の供用開始〔大阪府〕 2 処理場で高度処理施設の一部供用開始〔大阪府〕 3 処理場において高度処理事業に着手〔大阪府、兵庫県〕
- ・河川浄化：浄化施設の整備・維持管理等〔近畿地方整備局、滋賀県、大阪府〕 浄化浚渫〔滋賀県、大阪府〕 導水事業〔堺市〕 河口干潟整備〔大阪府〕を実施
- ・森林整備：企業、市民と連携した森林ボランティア活動の支援〔近畿中国森林管理局、兵庫県、京都府、大阪府、奈良県〕 公共工事での間伐材等の木材利用の推進〔近畿中国森林管理局、京都府、滋賀県、奈良県〕
- ・河川清掃活動：「淀川わんどクリーン大作戦」「大和川クリーンデー」等と連携した河川清掃活動〔各機関〕

海域における環境改善対策

- ・水質の改善：浚渫土砂の有効活用による、大阪湾内の窪地修復へ向けた検討の実施〔近畿地方整備局〕
- ・多様な生物の生息・生育：
 - 藻場の整備：泉佐野市・田尻町地先で完成（4ha）〔大阪府〕
 - 護岸等への環境改善機能の付加：生物共生型護岸（堺 2 区）の順応的管理の実施〔近畿地方整備局〕
- ・親水性の向上：
 - 親水活動の実施：なぎさ海道ウォーク〔（財）大阪湾ベイエリア開発推進機構〕 阪神なぎさ回廊ウォーク〔兵庫県〕の実施
 - 親水空間の整備：舞洲緑地、咲洲海浜緑地での魚つり開放〔大阪市〕
- ・浮遊・漂着・海底ごみの削減：
 - 大阪湾クリーン作戦、リフレッシュ瀬戸内、海洋環境整備船による浮遊、漂着ごみ回収など〔各機関〕 海洋レーダで得られた流況データを利用した浮遊ごみ等の挙動解析

等〔近畿地方整備局〕

大阪湾再生のためのモニタリング

- ・環境の監視：
効率的・効果的なモニタリング：大阪湾及び河川 470 点で大阪湾再生水質一斉調査(第 7 回)を実施〔大阪湾再生推進会議〕
モニタリング結果の一般への提供：「バーチャル大阪湾」の公開〔大阪湾環境保全協議会(大阪府)〕
- ・市民参加によるモニタリング：大阪湾生き物一斉調査(第 3 回)の実施〔神戸港湾空港技術調査事務所〕
- ・大阪湾の汚濁機構解明：水質定点自動観測の実施及びホームページによるデータ配信開始〔神戸港湾空港技術調査事務所〕
- ・情報の共有化及び発信：大阪湾環境データベースの移設、内容の更新〔神戸港湾空港技術調査事務所〕

アピールポイントにおける集中的・先駆的な取り組み

- ・尼崎臨海部：高度処理事業への着手、海域での水質改善に向けた集中的な実証実験の実施、尼崎運河の親水性向上(護岸修景化、遊歩道整備、植栽等) など
- ・堺浜周辺：下水再生水送水事業、大和川浚渫土砂を活用した窪地埋め戻しの試験施工、人工干潟での環境モニタリング調査、生物共生型護岸の順応的管理 など

その他検討結果

陸域負荷の削減

- ・陸域負荷削減効果の評価とアピール：下水道整備等による汚濁負荷削減、下水処理水の有効活用による環境改善効果等の検討・PR

学識者、市民・NPO、産業界等との連携の強化

- ・表彰制度の継続・発展：第 2 回「魚庭の海」賞の募集・選考を実施(選考方法の見直しを実施)

大阪湾再生による効果の把握と見直し

- ・大阪湾再生に関するアンケート調査の実施
- ・平成 16 年度から平成 21 年度までの活動報告とりまとめの実施
(学識者からの意見聴取を実施)

広報の強化

- ・企画展の開催：大阪湾再生についてPRするための“大阪湾の企画展”を開催

効果的・効率的な施策の検討

- ・市民参加による流入負荷削減等の検討：大和川流域における生活排水対策社会実験の他流域への展開の検討

実験的な取り組み(社会実験・実証実験及び市民などと協働の取り組み)

- ・「箕面体験学習の森におけるオオクワガタの棲める森づくり」、「エコアートフェスタ大阪 2010」など、27 件の市民参画による取り組みを実施

大阪湾再生に関する報道状況

- ・「関空対岸でウミガメ誕生 大阪・泉南市、11年ぶり」(平成22年9月4日、産経新聞)
など、大阪湾再生に関する報道は、計22件(平成22年3月～平成23年2月)であった。

1. 目標の達成状況

平成 22 年度末時点における「大阪湾再生行動計画」の具体的な目標の達成状況は次のとおりです。

質の改善については、底層 D O は、年による変動はみられるものの、A 類型海域では全体的に若干の上昇傾向が窺えるほか、B 類型海域の神戸港沖(B-1)でも若干の上昇傾向が窺えます。また、表層 C O D については、年による変動がみられるものの、行動計画期間内は全体的にほぼ横ばいに推移している状況です。

場の整備については、概ね着実に進捗しており、新たに 4.0ha の藻場、0.65km の自然的な海岸線が整備完了するなど、一定の成果が得られました。

また、ごみのない美しい海岸線を目指し、陸域(河川ごみ)、海域(浮遊・漂着・海底ごみ)ともに、行政、市民連携のもと、ごみ回収活動を実施しました。

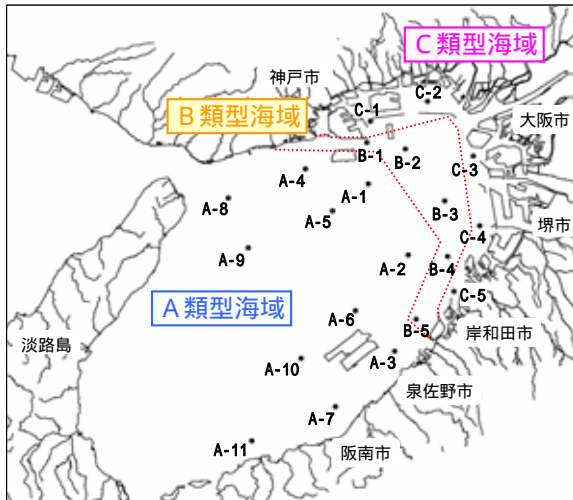
(1) 質の改善

年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する

表 1 大阪湾再生に係る具体的な目標の達成状況

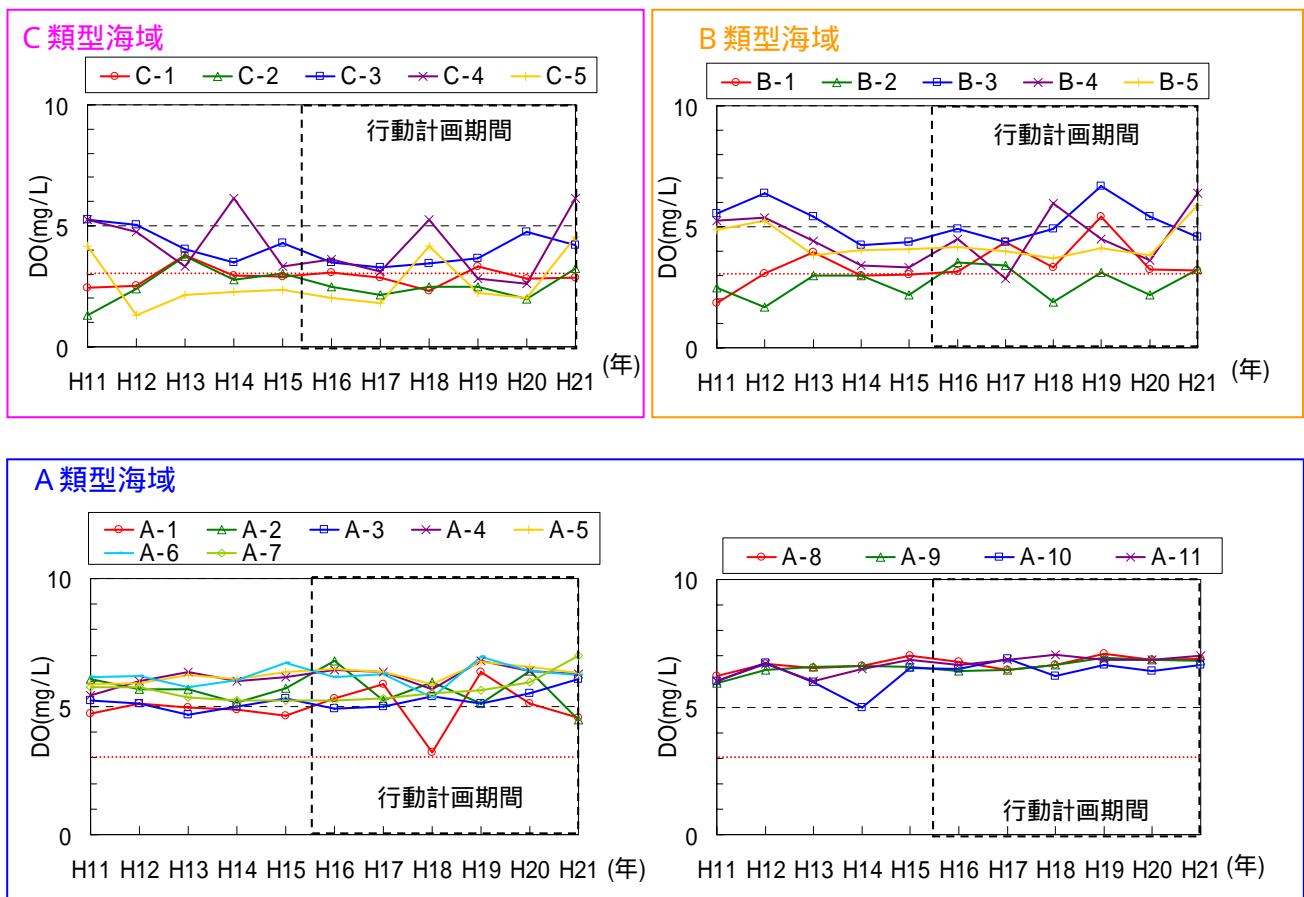
具体的な目標	目標の達成状況
年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する 底層 D O ・ 5mg/L 以上(当面は 3mg/L 以上)	【状況】 ・ 経年変化(図 1)を見ると、年による変動はみられるものの、A 類型海域では全体的に若干の上昇傾向が窺えるほか、B 類型海域の神戸港沖(B-1)でも若干の上昇傾向が窺える。C 類型海域ではほぼ横ばいに推移している。
《補完のための効果指標(平成20年度選定)》 底生生物 ・ 種類数、個体数ともに、夏季の底層 D O が低い(3mg/L 程度)湾奥部に近い B・C 類型海域で少ない傾向がみられる。また、経年変化については、年による変動はみられるものの顕著な変動はみられない(図 2)。 注) 大阪府域、兵庫県域(神戸市沖)では調査方法、調査時期等が異なるため、種類数・個体数の単純な比較はできない。	

【経年変化図（底層DO）】



指標 「底層DO（溶存酸素量）」
5mg/L 以上（当面は 3mg/L 以上）

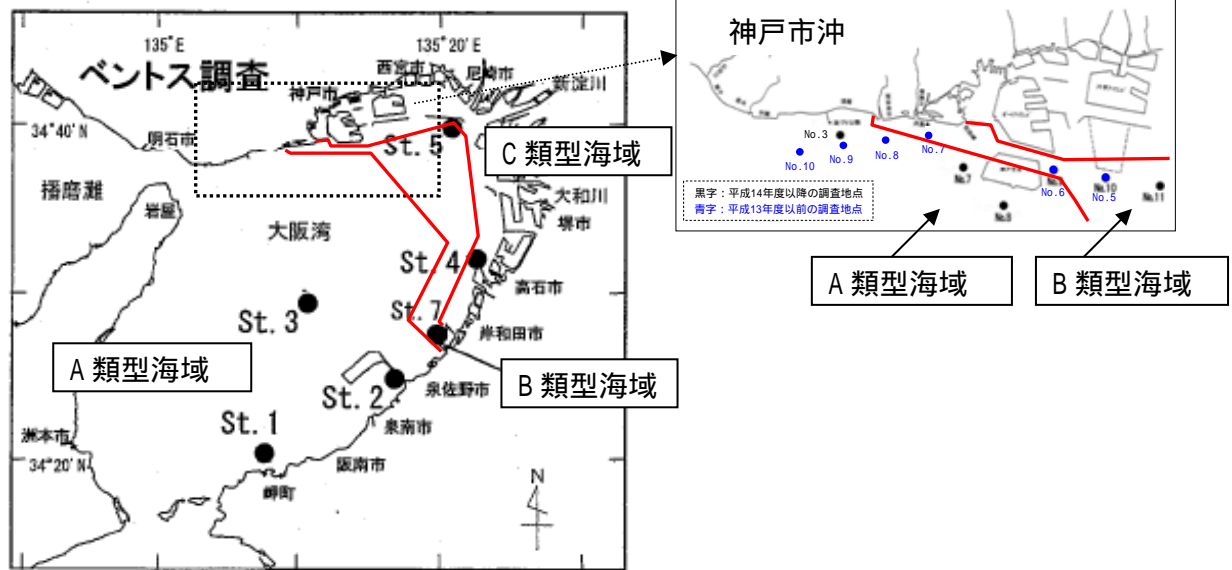
海域別、夏季（6～8月平均）底層DO



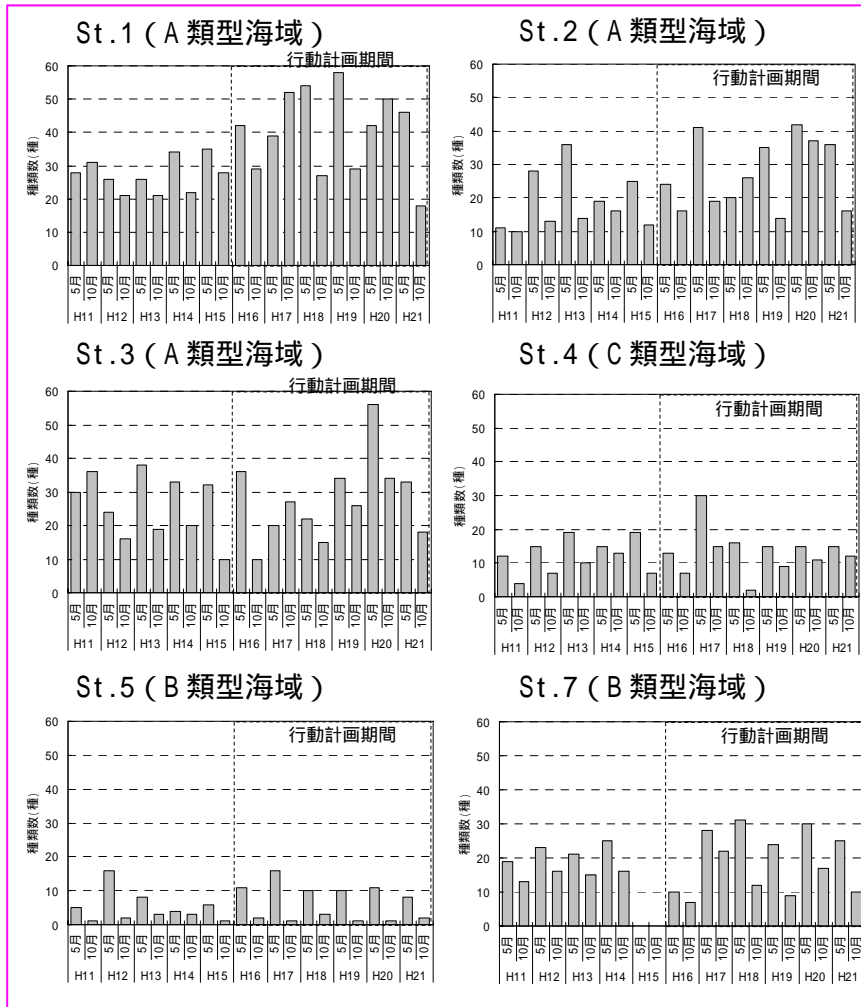
資料）公共用水域水質測定結果（大阪府分：大阪府域河川等水質調査結果、公共用水域水質等データベース（共に大阪府ホームページ）、兵庫県分：環境数値データベース（（独）国立環境研究所ホームページ）兵庫県提示資料）より作成

図 1 底層DOの経年変化（夏季（6～8月）の平均）

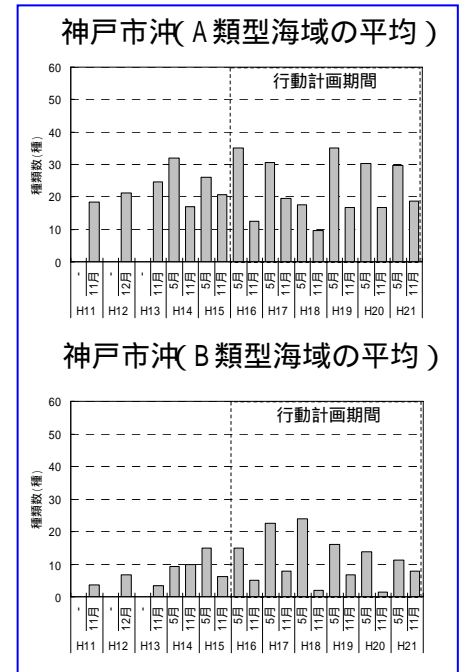
【経月変化図（底生生物・種類数）】



（大阪府域）



（兵庫県域）



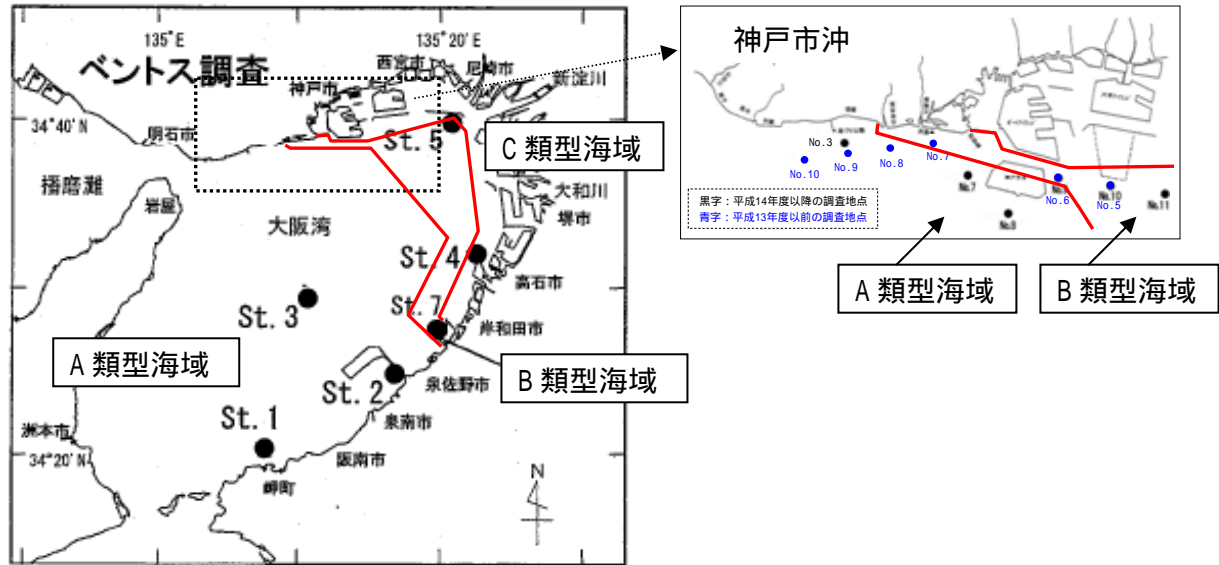
出典）漁場環境調査 生物モニタリング調査（大阪府水産技術センター）

環境水質 海域の水生生物調査（神戸市環境局）

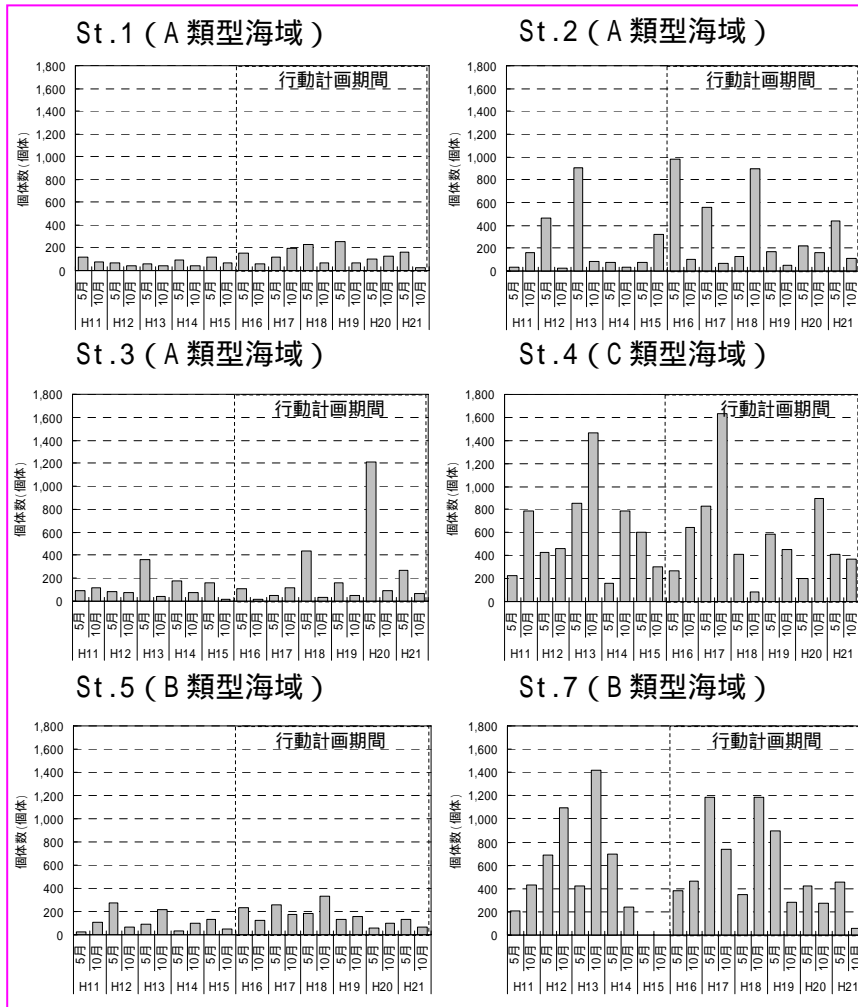
神戸市沖：約 0.1～0.12m²（H21 は約 0.15m²）当たりの種類数、大阪府域：0.1m² 当たりの種類数

図 2(1) 底生生物の経月変化（種類数）

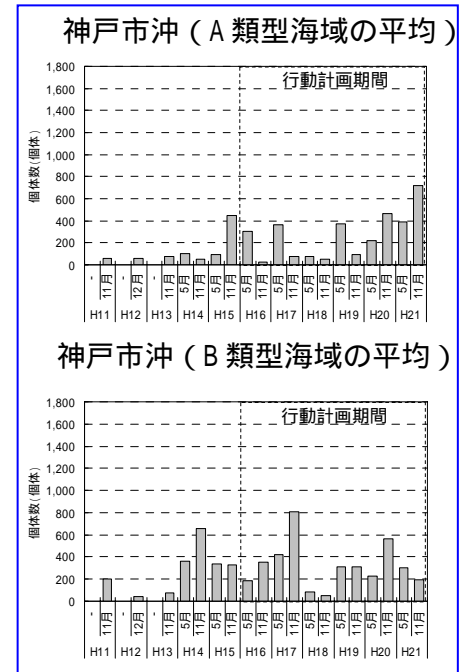
【経月変化図（底生生物・個体数）】



（大阪府域）



（兵庫県域）



出典）漁場環境調査 生物モニタリング調査（大阪府水産技術センター）

環境水質 海域の水生生物調査（神戸市環境局）

神戸市沖：約 0.1～0.12m²（H21 は約 0.15m²）当たりの個体数、大阪府域：0.1m² 当たりの個体数

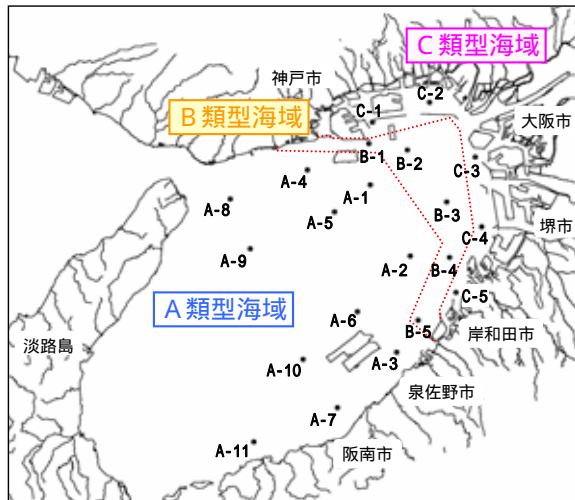
図 2(2) 底生生物の経月変化（個体数）

人々の親水活動に適した水質レベルを確保する

表 2 大阪湾再生に係る具体的な目標の達成状況

具体的な目標	目標の達成状況
<p>人々の親水活動に適した水質レベルを確保する</p> <p>表層COD</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散策、展望：5mg/L以下 ・潮干狩り：3mg/L以下 ・海水浴：2mg/L以下 ・ダイビング：1mg/L以下 	<p>【状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年変化(図 3)を見ると、年による変動があるものの、全体的にはほぼ横ばいに推移している。
<p>《補完のための効果指標（平成 20 年度選定）》</p> <p>透明度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年変化（図 4）を見ると、年による変動が大きくみられるものの、ほぼ横ばいに推移している。 <p>赤潮の発生状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年変化（図 5）を見ると、年による変動はみられるものの発生頻度の減少までには至っていない。 	

【経年変化図（表層COD）】

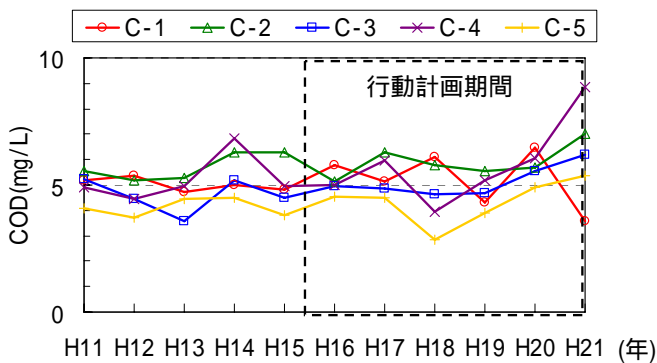


指標「表層COD」

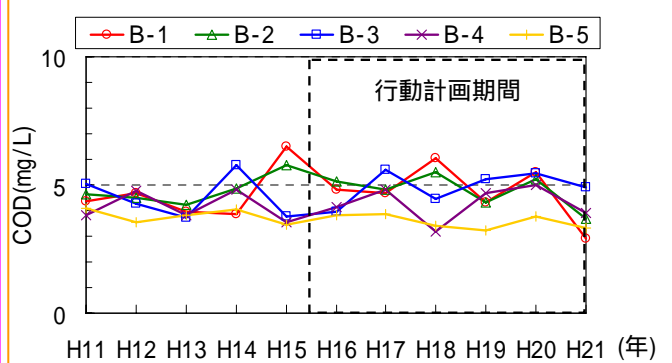
散策、展望：5mg/L 以下
潮干狩り：3mg/L 以下
海水浴：2mg/L 以下
ダイビング：1mg/L 以下

海域別、夏季（6～8月平均）表層COD

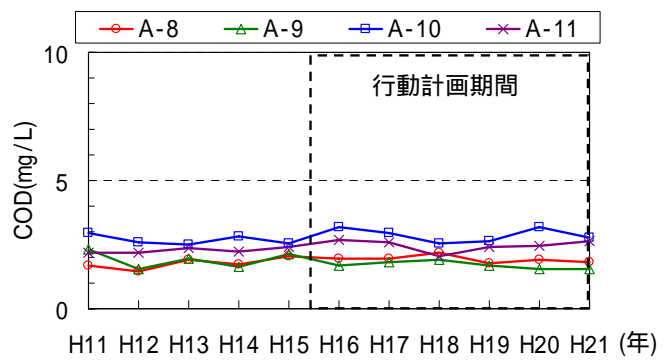
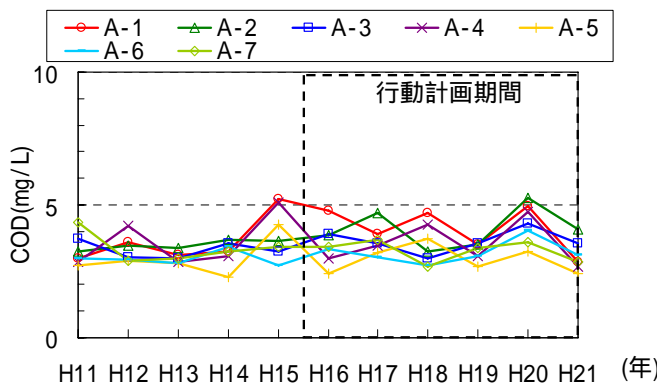
C 類型海域



B 類型海域



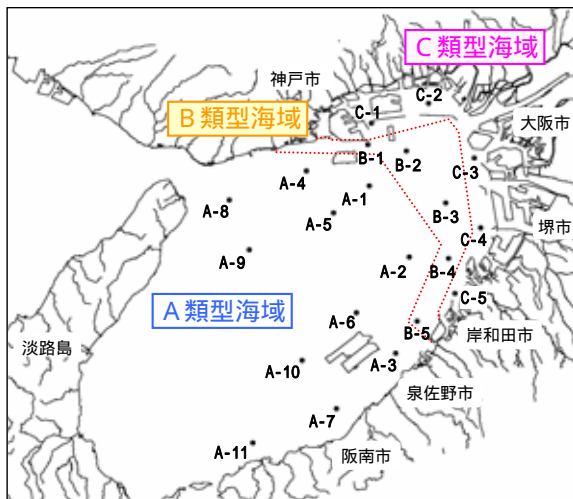
A 類型海域



資料）公共用水域水質測定結果（大阪府分：大阪府域河川等水質調査結果、公共用水域水質等データベース（共に大阪府ホームページ）、兵庫県分：環境数値データベース（独）国立環境研究所ホームページ）、兵庫県提示資料）より作成

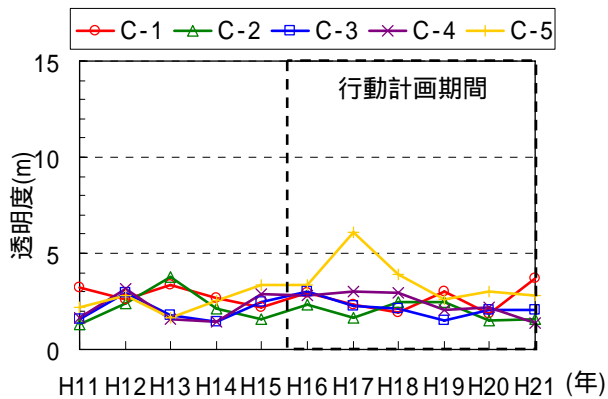
図 3 表層CODの経年変化（夏季（6～8月）の平均）

【経年変化図（透明度）】

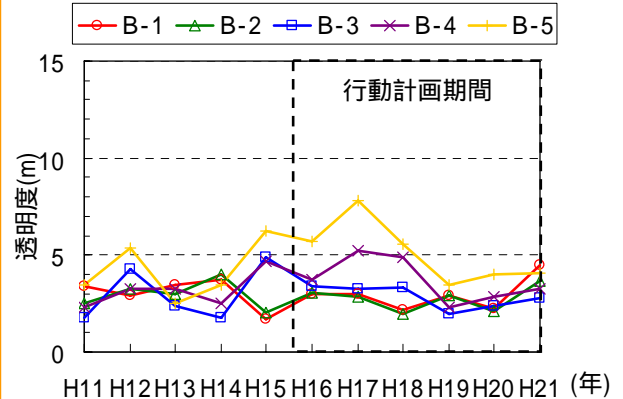


海域別、夏季（6～8月平均）透明度

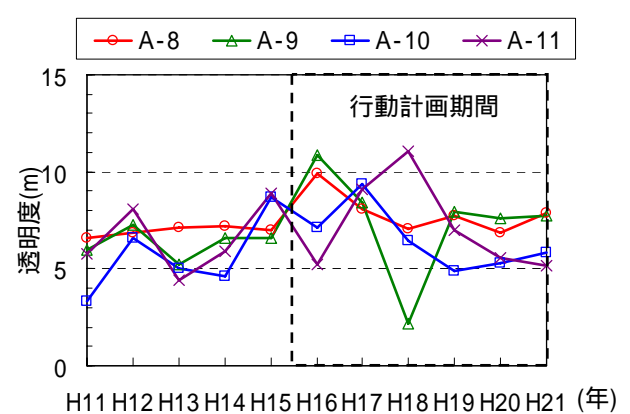
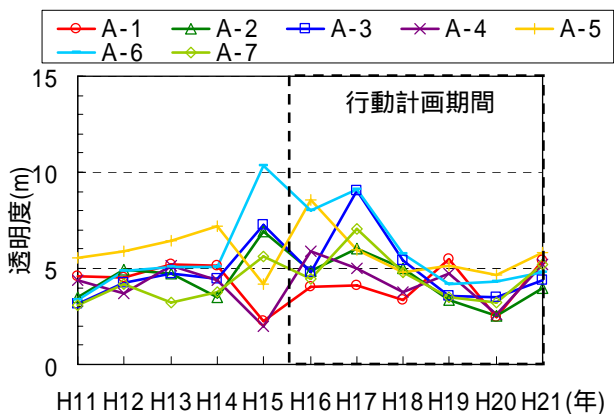
C 類型海域



B 類型海域



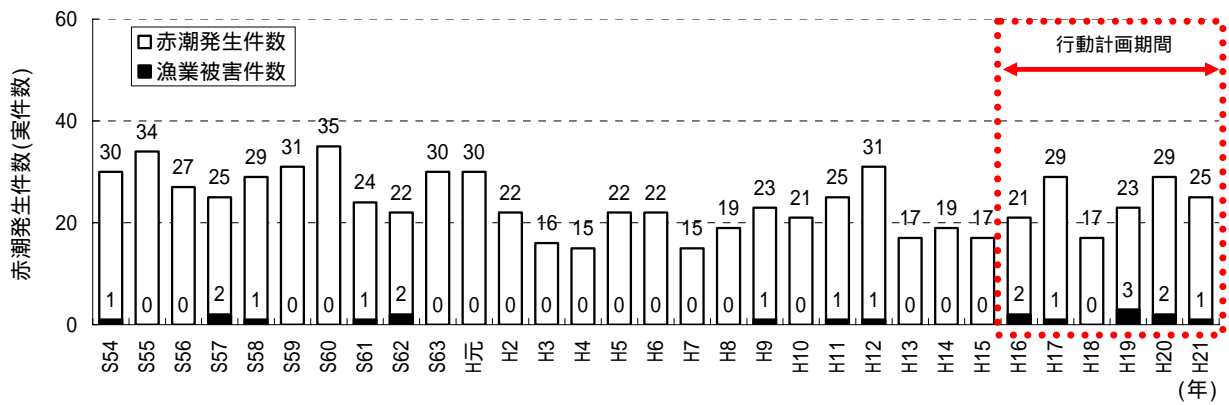
A 類型海域



資料) 公共用水域水質測定結果(大阪府分:大阪府域河川等水質調査結果、公共用水域水質等データベース(共に大阪府ホームページ)、兵庫県分:環境数値データベース((独)国立環境研究所ホームページ)、兵庫県提示資料)より作成

図 4 透明度の経年変化(夏季(6～8月)の平均)

【経年変化図（大阪湾における赤潮の発生状況）】



出典）瀬戸内海の赤潮（水産庁瀬戸内海漁業調整事務所）

図 5 赤潮の発生件数及び漁業被害件数

(2)場の整備

海域生物の生息に重要な場を再生する

干潟については、現在2箇所（13ha）で整備中です。（表3、図6）

藻場については、本年度4haの整備（泉佐野市・田尻町地先）が完了しました。また、新たに計画数量が4ha追加され、39.05haとなりました。（表4、図7）

浅場については、計画数量約2.4ha（神戸空港、御前浜）が平成17年度に完了し、活用されています。（表5、図8）

砂浜については、1箇所で整備中（夢洲）です。（表6、図9）

磯浜については、昨年度までに2.0kmの整備（新島）が完了しています。（表7、図10）

表3 干潟の整備状況

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	計
整備完了 (整備中は除く)	0 ha	0 ha	0 ha	0 ha	0 ha	0 ha	0ha	0 ha
計 画 (検討中を含む)	約 13.7 ha 参考) 行動計画策定時の目標：約 10ha							

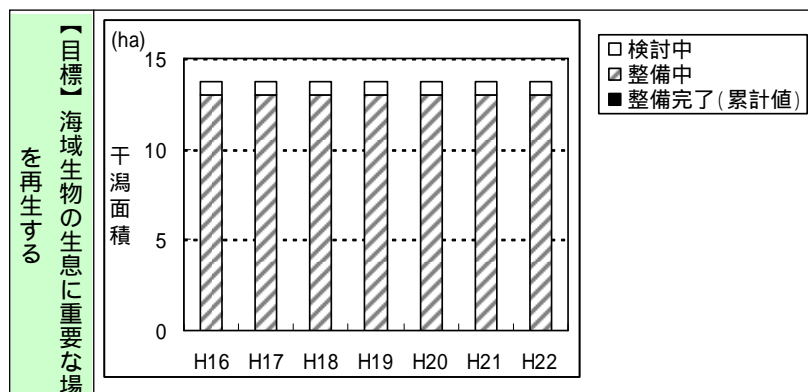
注) 行動計画策定時（H16.3月末）の大阪湾全体の干潟面積は15haである。

参考) 整備中 堺泉北港堺2区人工干潟（堺2区）[大阪府]：H22完了0ha、計画10ha

先端緑地整備等（泉北6区）[大阪府] H22完了0ha（一時休止中）、計画3ha

検討中 尼崎臨海地域の緑化（尼崎21世紀の森）[兵庫県] 計画0.7ha
（「海辺エリア」として検討中）

凡例) 事業名（実施箇所）[事業主体]：H22整備完了量、計画量 以下、同様



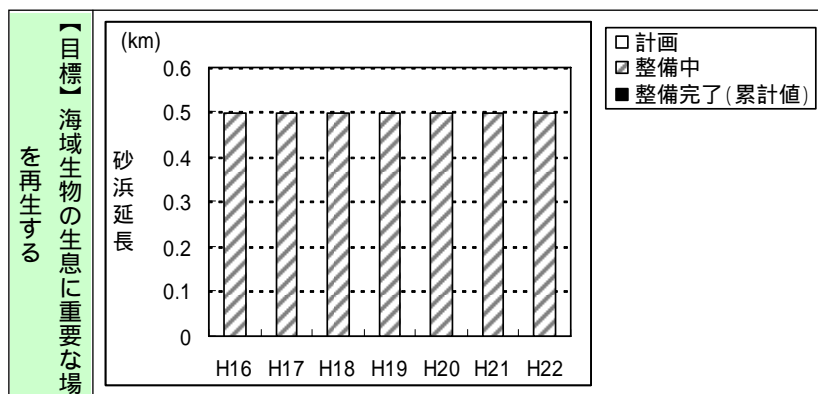
注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

図6 干潟の整備状況

表 6 砂浜の整備状況

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	計
整備完了 (整備中は除く)	0 km	0 km	0 km	0 km	0 km	0 km	0 km	0 km
計 画	約 0.5 km 参考) 行動計画策定時の計画: 約 0.5 km							

参考) 整備中 干潟、海浜、磯場の整備(夢洲)[大阪市]: H22 完了 0km、計画 0.5km
地盤改良及び一部盛砂施工は完了し、事業進捗は約 28%



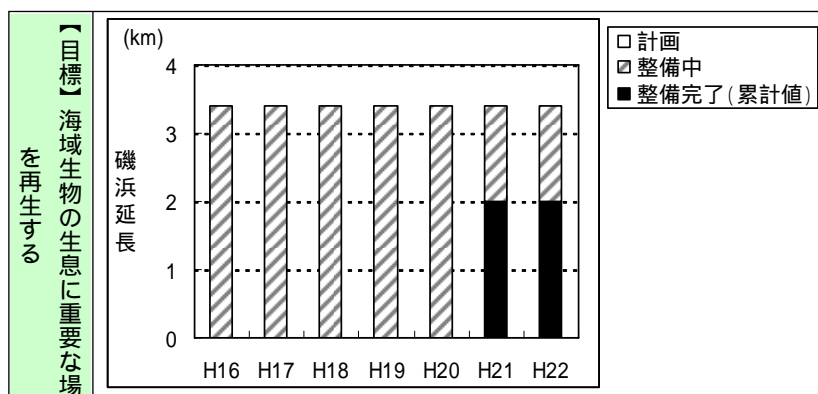
注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

図 9 砂浜の整備状況

表 7 磯場の整備状況

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	計
整備完了 (整備中は除く)	0 km	0 km	0 km	0 km	0 km	2.0 km	0 km	2.0 km
計 画	約 3.4 km 参考) 行動計画策定時の計画: 約 3.4 km							

参考) 整備中 緩傾斜護岸の整備(新島)[大阪市]: H22 完了 0km、計画: 3.4km



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

図 10 磯場の整備状況

人々が快適に触れ合える場を再生する

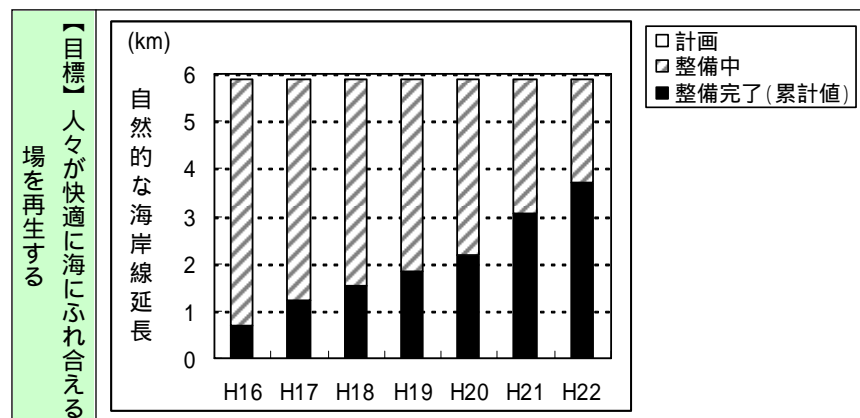
自然的な海岸線については、本年度 0.65km の整備が完了しました。(表 8、図 11)

環境教育・学習への参加者数は増加傾向にあり、平成 22 年度には年間約 5,600 人の参加が得られています。(図 12)

表 8 自然的な海岸線の整備状況

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	計
整備完了 (整備中は除く)	0.68 km	0.55 km	0.3 km	0.29 km	0.36 km	0.86 km	0.65 km	3.69 km
計 画	約 5.88 km 参考) 行動計画策定時の計画: 約 3.7 km							

参考) 整備中 西緑地造成(ポートアイランド(第2期))[神戸市]: H22 完了 0km、計画 1km
海岸環境整備事業(尼崎運河部)[兵庫県]: H22 完了 0.6km、計画 2.1km
親水護岸整備(堺旧港)[大阪府]: H22 完了 0.05km、計画 2.02km



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

図 11 自然的な海岸線の整備状況

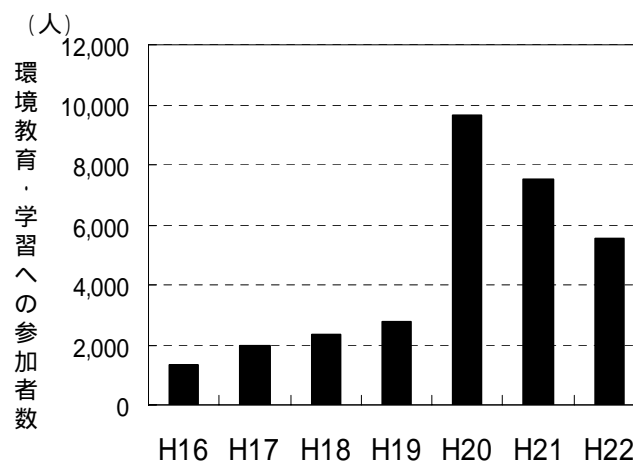


図 12 環境教育・学習への参加者数

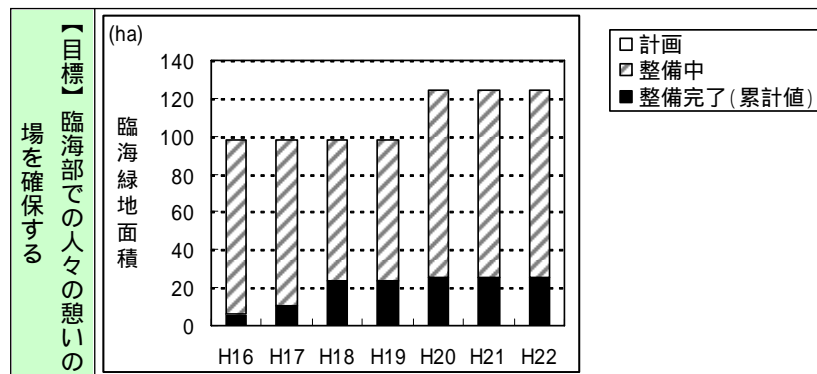
臨海部での人々の憩いの場を確保する

臨海部における海に面した緑地については、計画数量約 124.3ha のうち、25.33ha(進捗率：約 20%) が完成し、その他については整備中です。(表 9、図 13)

表 9 臨海部における海に面した緑地の整備状況

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	計
整備完了 (整備中は除く)	5.68 ha	4.55 ha	13.2 ha	0.5 ha	1.4 ha	0 ha	0 ha	25.33 ha
計 画	約 124.3 ha (平成 20 年度に 25.9ha 追加) 参考) 行動計画策定時の計画：98.4 ha							

参考) 整備中 尼崎臨海地域の緑化(尼崎 21 世紀の森)[兵庫県]: H22 完了 0ha、計画 29ha
 基幹的広域防災拠点緑地(堺 2 区)[近畿地方整備局]: H22 完了 0ha、計画 27.9ha
 共生の森事業(堺 7 - 3 区)[大阪府]: H22 完了 0ha、計画 12ha
 先端緑地整備等(泉北 6 区)[大阪府]: H22 完了 0ha、計画 7ha
 府営公園の整備及び管理(二色の浜公園、りんくう公園、せんなん里海公園)
 [大阪府]: H22 完了 0ha、計画 34.7ha
 ふれあい漁港漁村整備事業(深日漁港、小島漁港)[大阪府]: H22 完了 0ha、計画 2.8ha



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

図 13 臨海部における海に面した緑地の整備状況

ごみのない美しい海岸線・海域を確保する

河川や海岸・海上でのごみ回収活動が毎年着実に実施されています。(表 10、図 14、図 15)

河川ごみ及び海岸への漂着ごみについては、地域住民、ボランティア団体等との協働による回収活動を主として実施しています。

また、浮遊ごみ及び海底ごみについては、海洋環境整備船、漁業者との協働による漁船での回収活動を継続的に実施しています。

ごみ回収活動への参加者数は、例年 2.5 万人～5.0 万人程度で推移しており、平成 22 年度には約 3.3 万人の参加を得ています。

表 10 ごみ回収状況

【ごみの回収量】

[単位：t]

分類		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
行政による取り組み	浮遊ごみ	2,159.5	1,068.4	1,765.9	1,290.6	795.6	1,982.1	832.8
	漂着ごみ	356.4	135.0	66.6	34.8	15.0	52.2	0.0
	海底ごみ	448.5	456.6	54.0	33.0	19.2	18.0	396.0
	河川ごみ	10.0	119.8	205.4	119.2	13.0	11.0	0.8
	分類不能	-	-	-	-	-	-	0.1
	計	2,974.4	1,779.8	2,091.9	1,477.6	842.8	2,063.3	1,229.7
市民参画による取り組み	漂着ごみ	892.2	804.1	899.7	629.8	638.9	514.4	426.8
	海底ごみ	-	-	-	16.0	-	-	-
	河川ごみ	37.2	25.6	39.1	31.4	45.3	58.8	466.9
	分類不能	-	-	-	-	-	15.5	4.1
	計	929.4	829.7	938.8	677.2	684.2	588.7	897.8
合計		3,903.7	2,609.5	3,030.7	2,154.8	1,527.0	2,651.8	2,127.5

浮遊ごみ回収量が平成 16 年度に非常に多かったのは台風の影響によるものと考えられる。

【ごみ回収活動への市民の参加者数】

[単位：人]

分類	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
市民参画による取り組み	-	36,202	29,820	25,528	25,573	49,811	33,229

平成 16 年度は参加者数を把握していない。

【目標】ごみのない美しい海岸線・海域を確保する

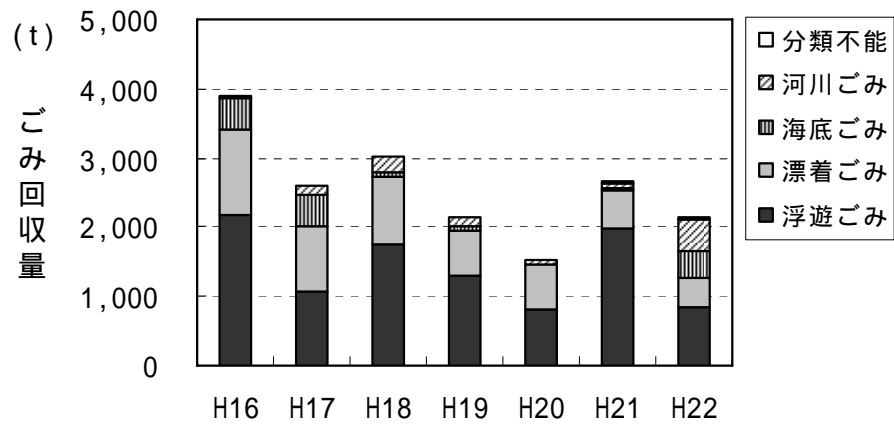


図 14 ごみ回収状況

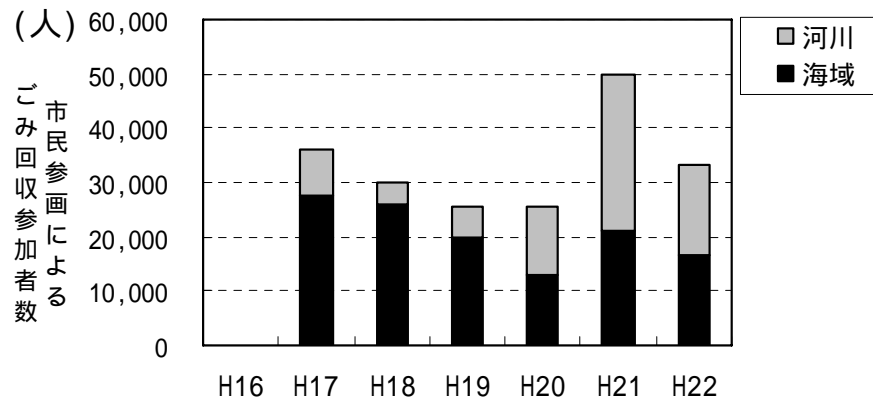


図 15 市民参画によるごみ回収 参加者数

2. 行政機関による「大阪湾再生」の目標達成のための積極的な取り組み (平成22年度の主な取り組みの概要)

2-1 陸域負荷削減施策の推進

2-1-1 陸域負荷の削減に向けた施策

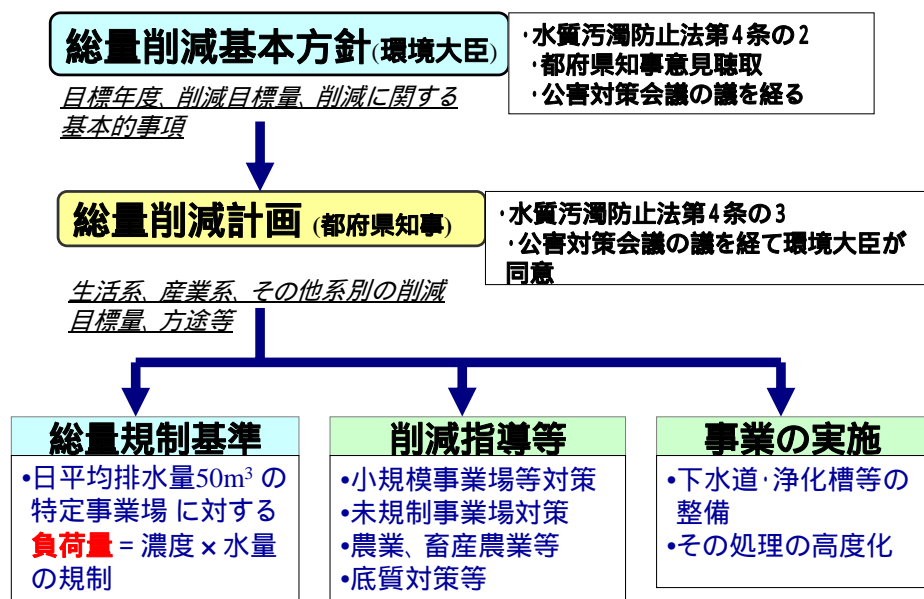
(1) 水質総量削減制度に基づく負荷量削減

第6次の総量削減計画の着実な実施及び事業場に対する総量規制基準の遵守の徹底、第7次総量削減に向けた検討<継続>

行動計画においては、計画期間内のおおさか湾における早急な水質改善のため、水質総量規制制度に基づき各府県が平成19年度に策定した第6次の総量削減計画の着実な実施及び事業場に対する総量規制基準の遵守の徹底等を図るとともに、平成21年度に第6次総量規制の目標年度を迎えることから、第7次総量規制の検討を行うこととしています。

平成22年度は、第6次の総量削減計画に基づく事業場に対する総量規制基準の遵守の指導を行いました〔各府県〕。また、第7次総量削減の実施に向けて、総量規制基準の設定方法について中央環境審議会より答申がなされた〔環境省〕ほか、第7次の総量削減計画の策定について、大阪府環境審議会に諮問を行いました(現在、水質規制部会で検討中)〔大阪府〕。

次年度以降も、引き続き、総量規制基準の遵守を指導〔各府県〕するとともに、第7次総量削減基本方針の策定等を行います〔環境省〕。



水質総量削減制度の概念図

(2) 効率的、総合的な負荷削減のための計画策定・事業実施

マザーレイク 21 計画（琵琶湖総合保全整備計画）による琵琶湖の総合保全【一部完了】

行動計画においては、高度処理、面源汚濁負荷対策等を含めた効率的、総合的な負荷削減のための計画策定及び事業実施を図ることとしています。

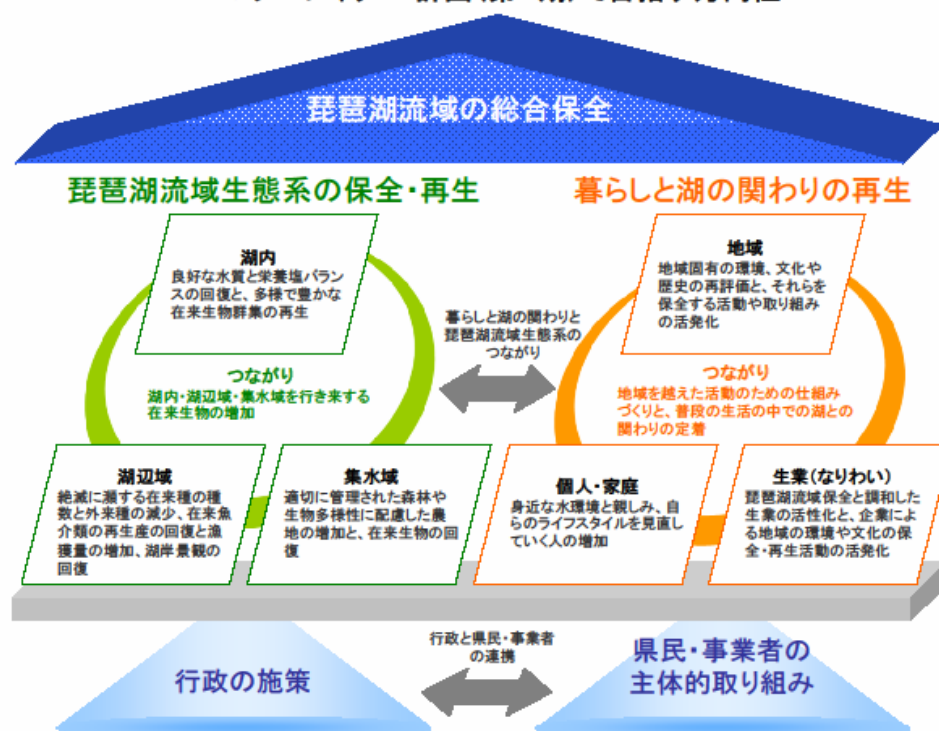
「水質保全」、「水源かん養」、「自然的環境・景観保全」の3分野による琵琶湖の総合保全対策を、行政、住民、事業者等が連携・協働のもとに推進してきた「マザーレイク 21 計画」の第 1 期計画期間が平成 22 年度末に終了します。

平成 22 年度は、琵琶湖総合保全学術委員会による第 1 期の評価と第 2 期の方向性、および国の関係省庁で実施された「琵琶湖の総合的な保全のための計画調査」を踏まえ、平成 23 年度からスタートする第 2 期計画期間に向けて、「マザーレイク 21 計画」の改訂を行っています〔滋賀県〕

計画改訂においては、第 1 期の 3 本柱（「水質保全」、「水源かん養」、「自然的環境・景観保全」）について、全体の繋がりを意識してまとめた「琵琶湖流域生態系の保全・再生」と、保全・再生のために、人々のライフスタイルの見直しと湖との関わりの再生が重要との観点から設けた「暮らしと湖の関わりの再生」の 2 つを大きな柱として据えました。また、新たに、目標に対する指標について、県民にとってわかりやすい指標として、生物的指標や人間の五感に基づく指標の採用も検討しながら設けていく予定です。

次年度から第 2 期がスタートし、琵琶湖・淀川流域の住民や事業者、行政が琵琶湖の課題を共有しながら、新たな「マザーレイク 21 計画」を進めていきます〔滋賀県〕

マザーレイク21計画(第2期)で目指す方向性



マザーレイク 21 計画の概念図

(3) 下水道事業による排出負荷量の削減

寝屋川北部流域下水道（なわて水みらいセンター）、寝屋川南部流域下水道（竜華水みらいセンター）の供用開始【完了】

なわて水みらいセンター、竜華水みらいセンターで高度処理施設一部供用開始【一部完了】

南吹田下水処理場、尼崎市北部浄化センター、東部浄化センターにおいて高度処理事業に着手【新規】

行動計画においては、陸域からの汚濁負荷を削減するために、以下のとおり下水道事業を推進することとしています。

大阪湾の集水域内で下水道事業を予定している全地域において事業に着手するものとし、新たに4処理場の供用開始を目指す（なお、2処理場は平成19年度末までに供用開始済み）

新たに24箇所の処理場での高度処理化を目指す

合流式下水道の改善については合流式下水道緊急改善計画を平成16年度末までに策定し、早期にこれに基づき重点的・効果的に改善事業（ろ過スクリーン設置、貯留施設、消毒施設整備等）を実施する

今年度は、昨年度に引き続き、以下の事業を実施しました。

寝屋川北部流域下水道（なわて水みらいセンター）及び寝屋川南部流域下水道（竜華水みらいセンター）〔大阪府〕の2処理場を供用開始しました。

下水処理場の高度処理化については、2処理場（なわて水みらいセンター、竜華水みらいセンター〔大阪府〕）で一部完了（供用開始）し、3処理場（南吹田下水処理場〔大阪府〕、尼崎市北部浄化センター、東部浄化センター〔兵庫県〕）で新たに着手しました。このほか、多くの処理場で高度処理を実施しています。

下水道普及率（平成21年度末）：91.0%

高度処理人口普及率（接続人口）（平成21年度末）：43.0%

合流式下水道の改善については、合流式下水道緊急改善計画に基づく改善事業を継続して実施しています。

また、次年度以降も、各府県市において引き続き上記の事業を継続する予定です。



写真提供：大阪府
なわて水みらいセンター



写真提供：大阪府
竜華水みらいセンター

(4)河川浄化

大和川水系（曾我川、落堀川、佐保川など）、寝屋川水系（恩智川）での浄化施設の整備及び維持管理・モニタリングの実施＜継続＞

琵琶湖流域（赤野井湾・西の湖・木浜内湖・平湖・柳平湖）、寝屋川水系（寝屋川・平野川）での流入河川対策、浄化浚渫や覆土工＜継続＞

土居川での海水導水事業＜継続＞

大川（旧淀川）での水質浄化施設の設置【新規】

近木川での河口干潟整備＜継続＞

行動計画においては、河川浄化施設による浄化（大和川水系、寝屋川水系、樫井川など）、浄化浚渫による有機汚濁対策（寝屋川水系、石津川、樫井川など）に加え、河口干潟（近木川）などの保全・再生に伴う窒素・りん等の栄養塩類の削減を、当該河川関係住民の意見をふまえた河川整備計画に基づき、積極的に推進することとしています。

今年度は、次の事業を継続実施または新規着手しました。

< 河川浄化対策 >

- ・ 曾我川（大和川水系）：既存浄化施設の維持管理・モニタリングの実施〔近畿地方整備局〕
- ・ 落堀川（大和川水系）：薄層流浄化施設の整備〔大阪府〕
- ・ 佐保川（大和川水系）：浄化施設への接触材設置〔近畿地方整備局〕
- ・ 恩智川（寝屋川水系）：多自然浄化施設の整備〔大阪府〕
- ・ 大川（淀川水系）：水質浄化施設の設置〔大阪府〕
- ・ 赤野井湾(琵琶湖流域)：流入河川対策（内湖拡幅）〔滋賀県〕

< 浄化浚渫等 >

- ・ 西の湖（琵琶湖流域）：浄化浚渫〔滋賀県〕
- ・ 木浜内湖・平湖・柳平湖（琵琶湖流域）：覆土工〔滋賀県〕
- ・ 寝屋川・平野川（寝屋川水系）：浄化浚渫〔大阪府〕

< 導水事業 >

- ・ 土居川：海水導水事業の第2期工事完了〔堺市〕

< 河口干潟整備 >

- ・ 近木川：河口干潟造成〔大阪府〕

また、次年度以降も、上記事業などを継続する予定です。



浄化浚渫（西の湖）

(5) 森林整備

企業、市民と連携した森林ボランティア活動の支援、並びに公共工事での間伐材等の木材利用の推進＜継続＞

行動計画においては、「漁民の森づくり」や「里山ボランティア活動の推進」など多様な主体が参加・協力した森林整備の推進に努めるとともに、公共土木工事における間伐材の利用や、水質浄化材としての木炭や竹炭の利用など、森・川・海が連携した森づくりの取り組みや、循環型資源としての木材利用を進めることとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、市民、地域と連携した森林整備を推進しました。

- ・ 箕面国有林の「箕面体験学習の森」がオオクワガタの棲める森となることを目指し、箕面市内の小学校、幼稚園児、ボランティア、地域住民等により、約1年間ドングリから育てたクヌギ、コナラの苗木を山に返す植樹祭等を実施した。[近畿中国森林管理局]
- ・ 伊崎国有林において、森林ボランティアによる森林植生回復対策及びカワウ対策を行った。[近畿中国森林管理局]
- ・ 「森林ボランティア育成1万人作戦」の展開（平成22年度予定：9,500人）[兵庫県]
- ・ 府民参画による森林整備等の促進（京都モデルフォレスト）ボランティア団体が行う森林整備等の支援 [京都府]
- ・ 府民、企業等との協働による森づくり事業の実施 [大阪府]
- ・ 県民参加の森林づくりとして、NPOやボランティア団体等の協力を得ながら里山林を整備 [奈良県]

また、公共工事の木材利用を推進しました。[近畿中国森林管理局、滋賀県、京都府、奈良県]

次年度以降も、上記の取り組みを継続する予定です。



写真提供：京都府

企業等との森林利用保全協定の締結



写真提供：京都府

府民の森林ボランティア活動

京都モデルフォレスト

2-1-2 陸域負荷削減以外の施策

(1)河川清掃活動

「淀川わんどクリーン大作戦」「大和川クリーンデー」等と連携した河川清掃＜継続＞

行動計画においては、今後も市民活動等との連携による清掃活動を推進するとともに、ごみの種類の分類、海域でのごみ漂着の実態を広く一般に提示することなどを通じて発生源におけるごみ削減の基盤づくりを支援することとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、「淀川わんどクリーン大作戦」「大和川クリーンデー」等と連携した河川清掃活動を実施しました〔近畿地方整備局河川部、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県、大阪市、堺市など〕

また、次年度以降も、関係機関等と連携し、上記の事業を継続する予定です。



写真提供：堺市

大和川・石川クリーン作戦



写真提供：堺市

内川・土居川美化活動

2-2 海域における環境改善対策の推進

2-2-1 水質の改善

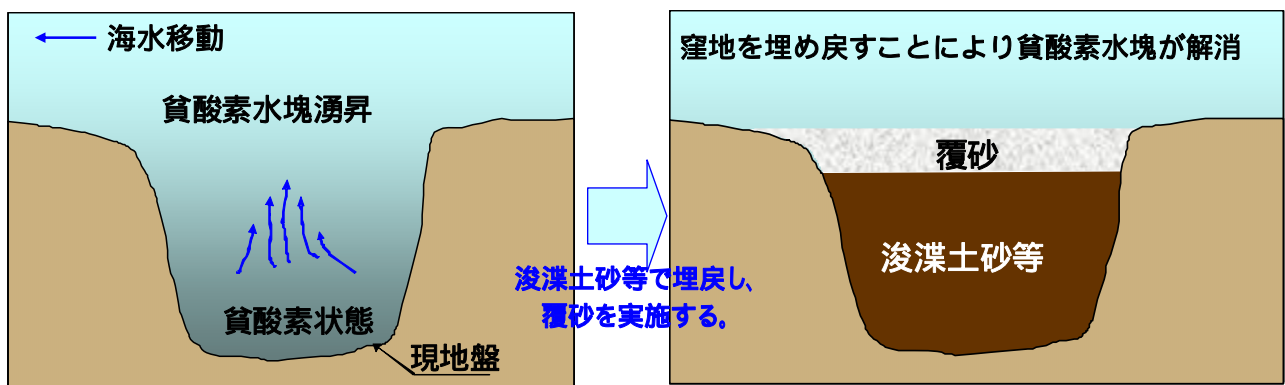
(1)大阪湾内の窪地修復へ向けた検討

浚渫土砂の有効活用による、大阪湾内の窪地修復へ向けた検討の実施＜継続＞

行動計画においては、水質の改善は、多様な生物の生息・生育と密接な関係があるとともに、人々の快適性にとっても重要な要素であることを踏まえ、底泥から溶出する栄養塩類の削減に向けて、覆砂及び薄層浚渫の技術開発を行うことや底泥の有効活用についての検討を行うこととしています。

今年度は、大阪湾における貧酸素水塊発生の一要因と考えられている海底窪地の修復へ向けた環境面、施工面からの検討を継続しました〔近畿地方整備局港湾空港部〕

また、次年度以降も、検討の継続を予定しています〔近畿地方整備局港湾空港部〕



窪地修復の技術的検討

2-2-2 多様な生物の生息・生育

(1) 藻場・干潟等の創出

藻場造成（泉佐野市・田尻町地先に 4.0ha の藻場を造成）＜継続＞

生物共生型護岸の順応的管理＜継続＞

行動計画においては、多様な生物の生息・生育を実現するために、極力、藻場・干潟といった浅海域の整備を行うものとし、具体的には、尼崎臨海地区（「尼崎の森中央緑地（海辺エリアの整備）」検討中、堺泉北港堺 2 区（「人工干潟整備（エコポートモデル事業等）」約 10ha）等に人工干潟や浅場を整備し、神戸空港（「人工海浜等の整備」約 2ha）には人工海浜を整備し、大阪港夢洲（「舞洲と夢洲の連続した海岸線の干潟、海浜、磯場の整備」約 0.5km）等では砂浜や磯浜を整備することとしています。

今年度は、藻場、干潟等の整備及び環境モニタリング調査、生物共生型護岸の順応的管理を継続して行いました。

藻場、干潟等の整備及び環境モニタリング調査

藻場：泉佐野市・田尻町地先に 4.0ha 造成完了 [大阪府]

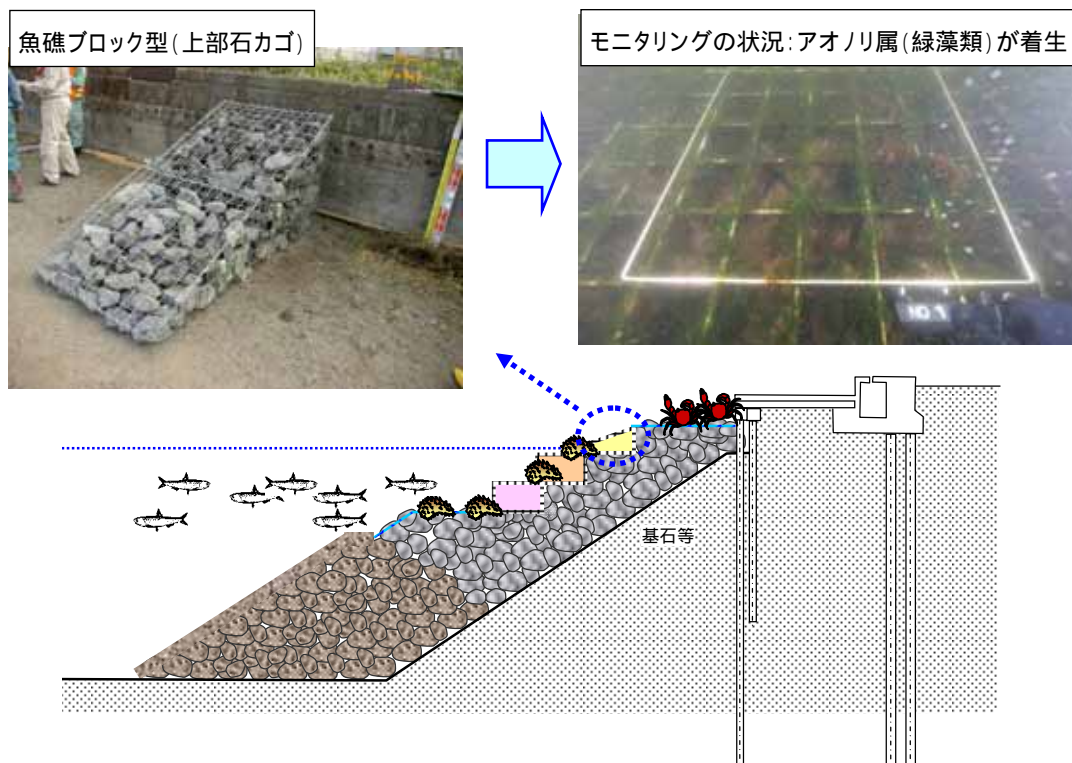
干潟：堺泉北港堺 2 区人工干潟における環境モニタリング調査の実施 [大阪府]

砂浜：夢洲での人工海浜（砂浜）の整備 [大阪市]（継続実施）

生物共生型護岸の順応的管理

堺泉北港堺 2 区北泊地に整備した生物共生型護岸に関する実証実験のモニタリングを実施 [近畿地方整備局港湾空港部]

また、次年度以降も、上記の事業を継続するほか、泉南域で 4.0ha の藻場造成を予定しています [大阪府]



堺泉北港堺 2 区北泊地の生物共生型護岸

2-2-3 親水性の向上

(1) 親水活動の実施

なぎさ海道ウォーク、阪神なぎさ回廊ウォークの実施＜継続＞

行動計画においては、人と海とが豊かに触れ合う魅力ある海辺空間の象徴として、「なぎさ海道」、
「なぎさ海道ウォーク」等による活動を今後も推進することとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、なぎさ海道ウォーク〔(財)大阪湾パイエリア開発推進機構〕及び阪神なぎさ回廊ウォーク〔兵庫県〕を実施しました。

また、次年度以降も、これらの取り組みを継続する予定です。

【参考】

- ・ なぎさ海道ウォーク：参加者 21,037 人、60 回実施（予定）（大阪湾沿岸、平成 22 年 12 月時点）
- ・ 阪神なぎさ回廊ウォーク：参加者 662 人、1 回実施（第 2 回目：平成 23 年 3 月実施予定）（大阪湾沿岸、平成 22 年 12 月時点）



写真提供：(財)大阪湾パイエリア開発推進機構

羽倉崎～樽井駅（南海ハイキング）平成 22 年 10 月 31 日
紀貫之が尊敬する神社・玉葱の碑を訪れ、茅渟の海を歩く



写真提供：(財)大阪湾パイエリア開発推進機構

江井ヶ島～播磨町駅（山陽ハイキング）平成 22 年 11 月 7 日
明石海浜公園・阿閩神社ハイク

なぎさ海道ウォーク

(2) 親水空間の整備

舞洲緑地、咲洲海浜緑地での魚つり開放【新規】

行動計画においては、臨海部における親水性の高い交流拠点や公園緑地の整備を進めることとしています。

今年度は、舞洲緑地(230m)、咲洲海浜緑地(215m)での魚つり開放〔大阪市〕を実施しました。

また、次年度以降も、これらの取り組みを継続する予定です。



写真提供：大阪市

舞洲緑地



写真提供：大阪市

咲洲海浜緑地

舞洲緑地、咲洲海浜緑地での魚つり開放

2-2-4 浮遊・漂着・海底ごみの削減

(1) ゴミ回収（漂着・浮遊・海底ごみ）

「大阪湾クリーン作戦」、「リフレッシュ瀬戸内」、海洋環境整備船による浮遊ごみ、漂着ごみ回収、漁船による浮遊ごみ、海底ごみ回収＜継続＞

行動計画においては、ごみ発生防止に当たっては、「大阪湾クリーン作戦」や「魚庭（なにわ）の海づくり大会」、南港野鳥園、阪南市福島海岸等での「港湾・海岸美化活動」などの河川、海域における住民、NPO、企業などが実施しているあらゆる美化活動と連携し、さらにこの活動を発展させ投棄ごみの削減を目的とした環境広報活動等を行うこととしています。また、海底ごみについて大阪湾全域を対象とした漁業者の協力を引き続き得ながら回収活動を行うこととしています。

今年度は、昨年度に引き続き、「大阪湾クリーン作戦」〔第五管区海上保安本部〕「リフレッシュ瀬戸内」〔海の路ネットワーク推進協議会〕海洋環境整備船による浮遊ごみ、漂着ごみ回収〔近畿地方整備局港湾空港部〕及び漁船による浮遊ごみ、海底ごみの回収〔大阪府〕などを実施しました。

また、次年度以降も、上記の取り組みを継続する予定です。

【参考】

- ・大阪湾クリーン作戦：8,161人参加、845t回収〔第五管区海上保安本部〕
- ・リフレッシュ瀬戸内：549人参加、9.8t回収(兵庫県分集計)〔海の路ネットワーク推進協議会〕
- ・海洋環境整備事業（海洋環境整備船による浮遊ごみ、漂着ごみ回収）：1,942m³回収〔近畿地方整備局港湾空港部〕
- ・漁船による浮遊ごみ、海底ごみの除去：浮遊ごみ12m³、海底ごみ1,320m³回収〔大阪府、大阪府海域美化安全協会〕



なにわの海クリーン作戦（平成22年6月1日、写真提供：第五管区海上保安本部）



須磨海岸クリーン作戦（平成22年6月27日、写真提供：第五管区海上保安本部）

(2) ゴミ回収の効率化に向けた汚濁機構の解明

海洋レーダを利用した浮遊ゴミ・流出油等による汚濁の機構解明＜継続＞

行動計画においては、ごみの回収に当たって、回収効率の向上を目指し、精度の高い浮遊ゴミ分布予測システムの構築、回収履歴等のデータベース化について検討を進めることとしています。

今年度は、海洋レーダで継続して現地観測を実施するとともに、大学と共同して、海洋レーダで得られた流況データを利用して、大阪湾全域の水質や環境監視を行うためのシミュレーションモデルの検討を行いました。〔神戸港湾空港技術調査事務所〕

また、次年度以降も、上記の取り組みを継続する予定です。



大阪湾・紀伊水道海洋短波レーダ表層流況配信システム

(<http://www.kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/hf-radar/>)

海洋レーダ（H17年度に垂水、淡路局を設置。その後、H20年度に淡路局を堺7-3区へ移設）

陸上に機器を設置し、電波を発信・その反射エコー（ドップラーエコー）を受信・処理し、複数局の解析結果データを合成する事により、海の表層の流況（流向・流速）を広範囲（面的）に取得する事ができるリモートセンシング技術を利用した観測機器



写真提供：神戸港湾空港技術調査事務所

海洋レーダ

2-3 大阪湾再生のためのモニタリング

2-3-1 環境監視のためのモニタリング

(1) 効率的・効果的なモニタリングの実施

国、沿岸府県、臨海部の事業者・企業及び大学との連携による「大阪湾再生水質一斉調査」（第7回）＜継続＞

行動計画においては、効果的かつ効率的なモニタリングを実施するために、調査項目等の統一化・集約化を行っていく必要があることから、関係機関が連携したモニタリングの実施体制を検討することとしています。

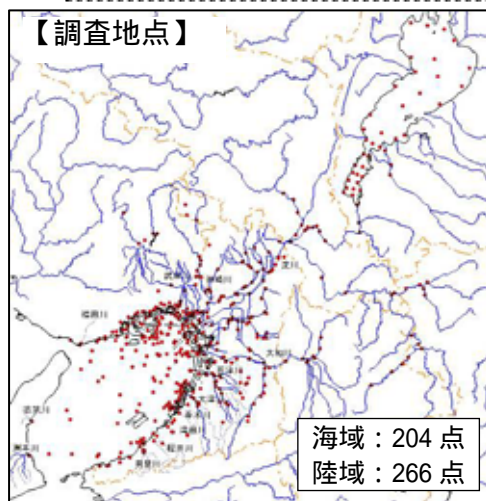
平成16年度から、国、自治体、研究機関、企業などと連携した大阪湾再生水質一斉調査を行っています。今年度は、平成22年8月3日を中心に、海域204地点（28機関）、陸域266地点（16機関）の計470点で調査を実施しました[大阪湾再生推進会議]。

また、次年度以降も、水質一斉調査を継続する予定です。

〔調査内容〕

- ・測定水深の統一化を図り大阪湾全域での水質水平分布を把握
- ・あわせて水平的、鉛直的な貧酸素水塊の分布把握を目的に測線調査を実施
- ・一斉調査の一時的な調査結果を補足する連続調査を実施

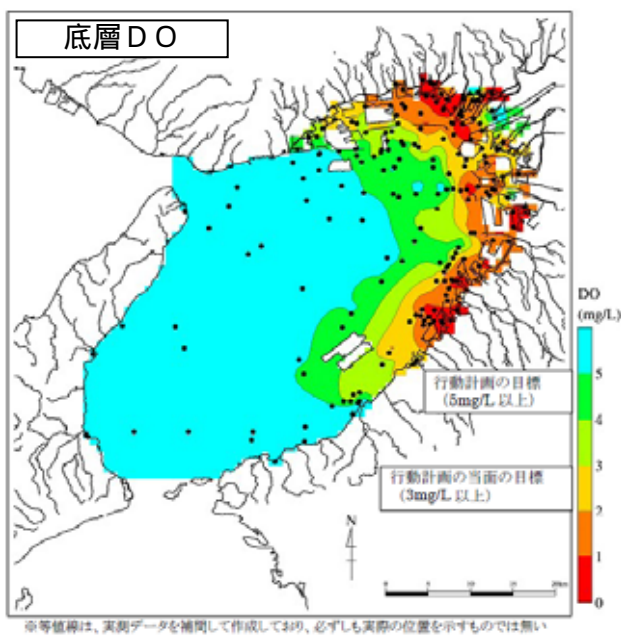
【調査地点】



【地点数と機関数】

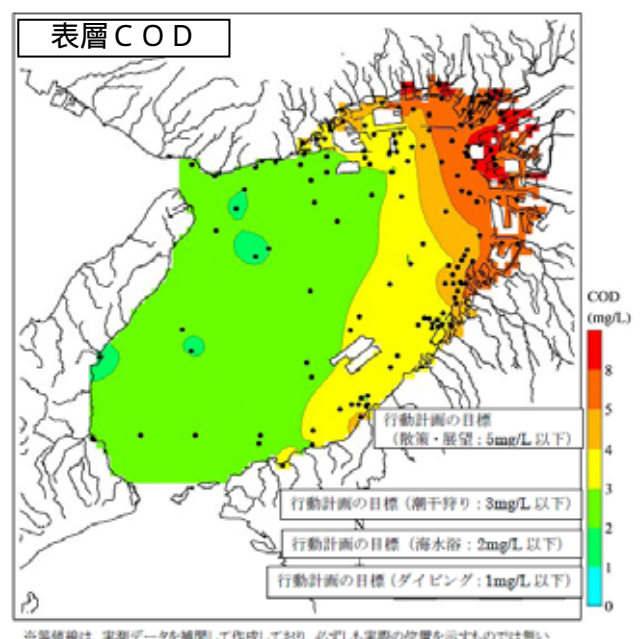
		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
海域	地点	160	206	217	208	194	214	204
	機関	12	20	22	24	28	31	28
陸域	地点	250	242	266	253	246	262	266
	機関	18	17	17	17	16	16	16

底層DO



※等値線は、実測データを補間して作成しており、必ずしも実際の位置を示すものではない

表層COD



※等値線は、実測データを補間して作成しており、必ずしも実際の位置を示すものではない

大阪湾再生水質一斉調査（平成22年度）の調査状況

(2) モニタリング結果の一般への提供

「バーチャル大阪湾」の公開【新規】

行動計画においては、得られたモニタリング結果は、市民にわかりやすい形で、広く一般に提供することとしています。

今年度は、大阪湾の魅力や課題などの幅広い情報を、写真等を使って発信する「バーチャル大阪湾」を公開しました〔大阪湾環境保全協議会（大阪府）〕

次年度以降も、上記の取り組みを継続する予定です。



バーチャル大阪湾 (<http://www.osaka-wan.jp/virtual/>)

2-3-2 市民参加によるモニタリング

(1)大阪湾生き物一斉調査の実施

多くの市民の協力のもと、大阪湾沿岸に棲息する生き物の調査により水環境を把握する取り組みとして、「第3回大阪湾生き物一斉調査」を実施＜継続＞

行動計画においては、市民参加を促進するためには、市民にとってわかりやすく、地域の生活や興味と密着したテーマのモニタリング活動の場を提供することが重要であるとしています。

大阪湾生き物一斉調査は、大阪湾沿岸の生き物を調査することで、市民の大阪湾への関心を高めるとともに、大阪湾の水環境を把握するために平成20年度から実施しています
〔神戸港湾空港技術調査事務所〕

調査の結果、474種の生き物が確認されるとともに、ハクセンシオマネキ（カニ）など貴重な生き物も多く確認されました。また、大阪湾沿岸に棲む生き物の分布状況についての貴重な情報が得られました。

次年度以降も継続的に実施し、生き物やそこからみえる水環境の変遷を経年的にみていく予定です。

〔調査場所〕17箇所（22地点）

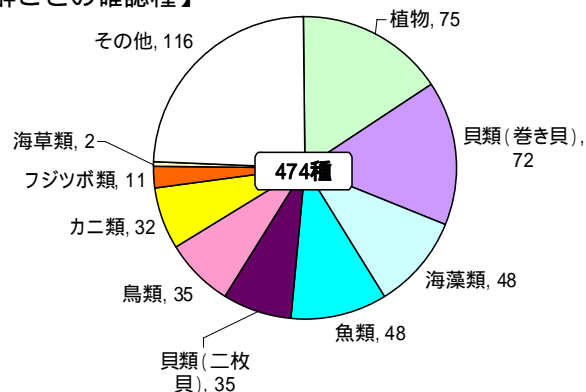
〔調査日〕5月29日（土）を中心に実施

〔参加者〕792名（16団体）

〔調査内容〕

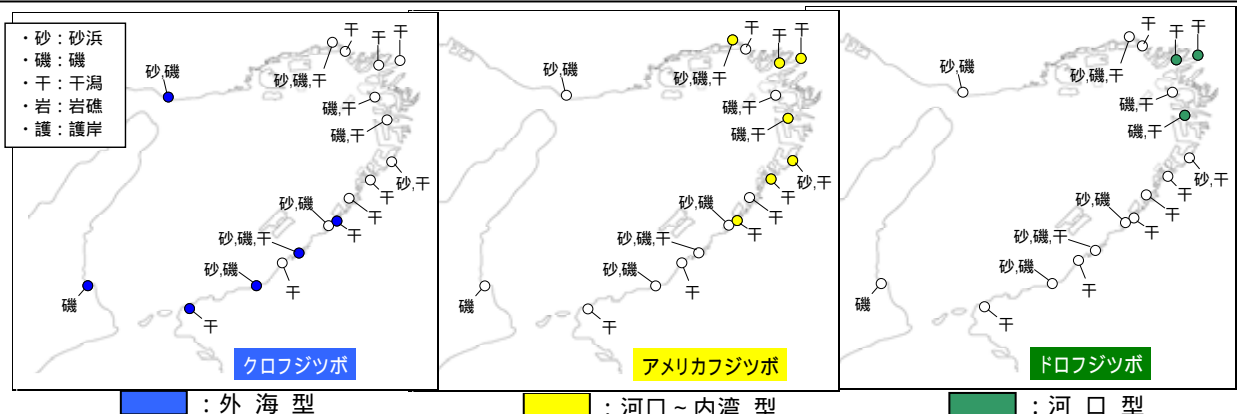
- ・所定の調査シートに確認した生き物を記入
- ・参加者が判断できなかった生き物は専門家により分類
- ・調査後、事務局が調査シートを収集し、集計

【分類群ごとの確認種】



【種の分布状況の例】

外海型のクロフジツボは湾中間域より湾口側で出現し、河口型のドロフジツボは湾奥の3地点で出現するなど、大阪湾沿岸に棲む生き物の分布状況が明らかとなった。



調査地点	調査地点の環境	担当団体
1 アジュール舞子	砂浜、磯・岩礁	須磨海浜水族園ボランティア
2 香櫨園浜	砂浜、磯、干潟	西宮自然保護協会
3 甲子園浜海浜公園	干潟	NPO法人 海浜の自然環境を守る会
4 矢倉海岸	干潟	NPO法人 シニア自然大学校 子供教育部門
5 十三干潟（淀川）	干潟	西淀自然文化協会
6 大阪南港野鳥園	人工磯・干潟	(社)大阪自然環境保全協会 淀川自然観察会〔5/30〕
7 高師浜	砂浜、干潟	大阪南港野鳥園
8 大津川河口	干潟	浜寺公園自然の会
9 阪南2区埋立地	干潟	きしわだ自然友の会
10 近木川河口	干潟	NPO法人 シニア自然大学校 森と海の自然科〔5/27〕
11 二色の浜	砂浜、磯	貝塚市立自然資料館〔5/15〕
12 榎井川河口 岡田海岸	砂浜、岩礁	貝塚市立自然資料館〔5/8、5/15〕
13 榎井川河口干潟	干潟	男里川の干潟を守る会
14 せんなん里海公園	砂浜、磯、岩礁	里海くらぶ連絡協議会
15 東川（落合川）河口	干潟	きしわだ自然資料館〔5/30〕
16 洲本市大浜	磯、岩礁	国立公園成ヶ島を美しくする会
17 堺2区埋立地	磯、岩礁、干潟	NPO法人 釣り文化協会

2-3-3 大阪湾における汚濁機構をより詳細に解明するためのモニタリング

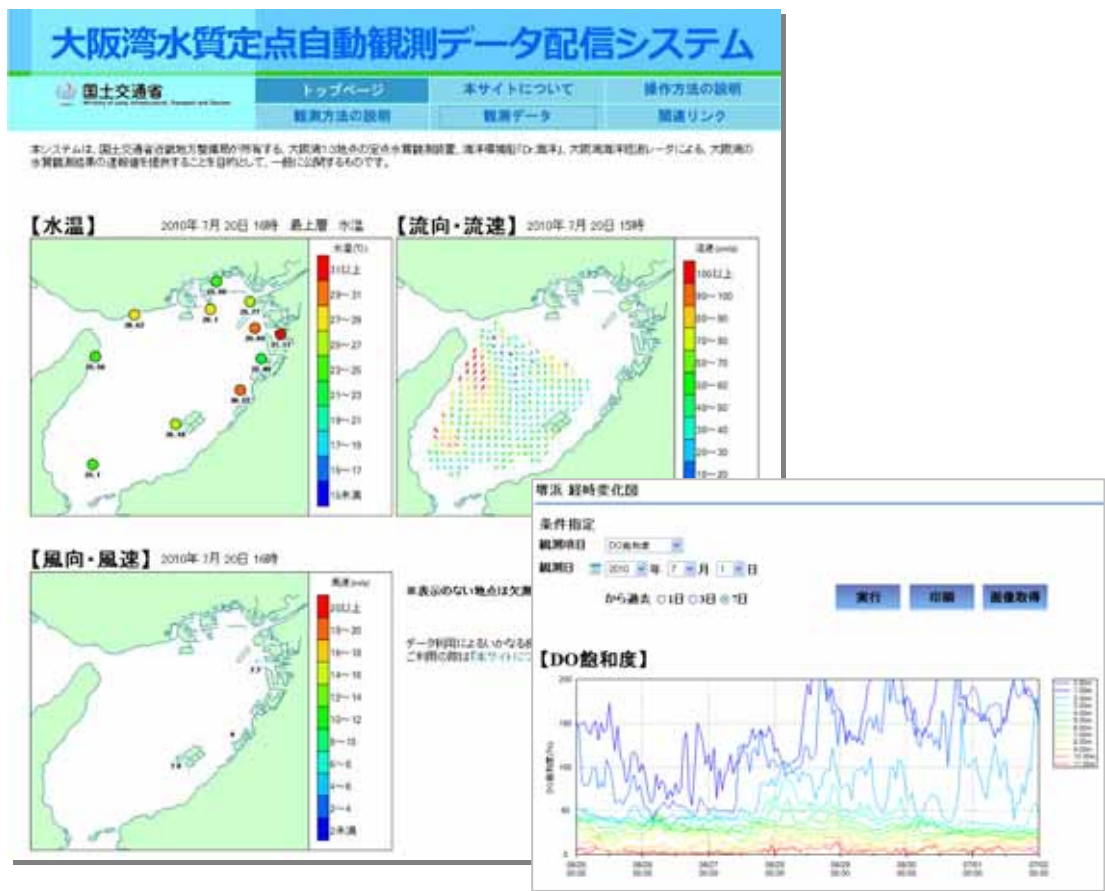
(1) 水質定点自動観測の実施及びデータ配信

水質定点自動観測の実施及びホームページによるデータ配信開始【新規】

行動計画においては、これまで実施している貧酸素水塊調査をさらに充実させるとともに、一層詳細に汚濁機構を解明するために平成16年度より汚濁機構解明のために必要なモニタリング手法や体制を検討することとしています。

今年度は、昨年度設置した大阪湾内の水質及び流況に係る常時観測局（13点）でのデータ観測及びホームページによるデータ配信を開始するとともに、データを活用した大阪湾の汚濁メカニズムの解明を行っています〔神戸港湾空港技術調査事務所〕

次年度以降も、上記の取り組みを継続する予定です。



大阪湾水質定点自動観測データ配信システム(<http://222.158.245.253/>)

定点自動観測局の測定項目と方式

No	名称	水温	塩分	DO	Chl	濁度	水中光量	流況	気象	方式
	明石海峡航路東方沖灯浮標									固定式(1層)
	洲本沖灯浮標									固定式(1層)
	関空MT局									自動昇降式
	神戸港波浪観測塔									自動昇降式
	淀川河口									固定式(3層)
	阪南沖窪地									自動昇降式
	堺浜									自動昇降式
	六甲アイランド東水路中央第三号灯標									固定式(18層)
	浜寺航路第十号灯標									固定式(18層)
	淡路交流の置港									固定式(2層)
	須磨海づり公園									固定式(2層)
	大阪港波浪観測塔									自動昇降式
	岸和田沖									自動昇降式

DO: 溶存酸素濃度
Chl: クロロフィル



自動観測システムの構成

2-3-4 情報の共有化及び発信

(1)大阪湾環境データベース

大阪湾環境データベースの移設、内容の更新＜継続＞

行動計画においては、大阪湾環境データベースを活用して大阪湾再生のためのモニタリングに関する情報・データを一元的に集約・管理し、発信することにより、情報を広く有効に活用することとしています。

今年度は、大阪湾環境データベースの移設、内容の更新を行いました〔神戸港湾空港技術調査事務所〕

次年度以降も、コンテンツの改良、追加を随時実施する予定です。



The screenshot shows the homepage of the Osaka Bay Environment Database. The header includes the title '大阪湾環境データベース' and a search bar. The main content area features a large illustration of Osaka Bay with a bridge and ships, and a sidebar with navigation links. A news section highlights a recent update about the automatic data collection system. A detailed view of the 'Water Quality' section is shown in an inset, including a map of the bay with data points and a list of related topics.

大阪湾環境データベース

サイトマップ | アクセス: 30994件

はじめてアクセスされた方へ

- 大阪湾を巡る
- 大阪湾の紹介
- 大阪湾のイベントに参加しよう
- 大阪湾で遊ぶ
- 大阪湾環境情報うりやうりハウス
- データで見る大阪湾
- 環境情報リンク
- 関連機関リンク

大阪湾の再生

- 大阪湾生き物一斉調査
- 大阪湾水質定点自動観測データ配信システム
- 国土交通省 近畿地方整備局

きれいな大阪湾をめざして

大阪湾はこんなところ

大阪湾をもっと知りたい

環境データ収集ダウンロード

大阪湾ニュース

2010年4月30日 [大阪湾水質定点自動観測データ配信システムを公開しました](#)

この度、大阪湾水質定点自動観測データ配信システムを公開しました。トップページのバナーより閲覧していただくことができます。

大阪湾の環境 2.大阪湾の海域環境「水質」

流入汚濁負荷量(COD)の分布

流入汚濁負荷量(COD)についてみると、淀川が最も大きく104.6t/日となっており、次いで、神崎川26.6t/日、大和川22.3t/日となっており、大阪湾内において市内への流入汚濁負荷量が大きくなっています。

流入汚濁負荷量(COD)の分布(平成10～12年度、6～8月)

大阪湾の環境

- 1.大阪湾の気象
- 2.大阪湾の海域環境
 - 水質
 - 底質
 - 生態
 - 富栄養化
 - 潮流
 - 波浪
 - 堤防
 - 埋立
 - 埋立地の形状
 - 干潟・藻場
 - 底生生物
 - 砂り込み
- 3.大阪湾周辺の環境
- 4.大阪湾の沿岸域
- 5.その他

データで見る大阪湾の環境について

①1.4河川流量が計測されていない河川については、河川名を表示していません。
②流入汚濁負荷量が少ない河川(0.05トン/日未満)については、河川名のみを表示しました。

2-4 アピールポイントにおける施策の推進

(1) 尼崎臨海部、堺浜周辺における集中的・先駆的な取り組み

水環境やパブリックアクセス改善のための集中的かつ先駆的な取り組み < 継続 >

尼崎臨海部における集中的・先駆的な取り組み

- a. 尼崎市北部浄化センター、東部浄化センターにおいて高度処理事業に着手[兵庫県](流入負荷の削減)
- b. 集中的な実証実験の実施 [兵庫県]
(エコシステム護岸、エアレーション実験、栄養塩類回収水路)
- c. 尼崎臨海地域の緑化 (尼崎の森中央緑地) [兵庫県](緑地整備)
- d. 海岸環境整備事業 [兵庫県](遊歩道整備、植栽等)



写真提供：兵庫県



写真提供：兵庫県

海岸環境整備事業 [兵庫県](遊歩道整備、植栽等)

堺浜周辺における集中的・先駆的な取り組み

- a. 清流ルネッサンス 計画 [近畿地方整備局河川部、大阪府、奈良県](流入負荷の削減)
- b. 再生水送水事業 [堺市](下水処理水の有効利用)
- c. 窪地埋め戻しの試験施工 [近畿地方整備局港湾空港部](水質の改善)
- d. 堺泉北港堺 2 区人工干潟 [大阪府](環境モニタリング調査の実施)
- e. 「基幹的広域防災拠点緑地」整備 [近畿地方整備局港湾空港部](緑地整備)
- f. 生物共生型護岸の順応的管理 [近畿地方整備局港湾空港部](護岸への環境改善機能付加)

また、次年度以降も、これらの改善効果が早期に発現するよう、上記の取り組みを継続する予定です。

2-5 平成 22 年度の重点的な取り組みへの対応

(1) 陸域負荷削減効果の評価とアピール

下水道整備等による汚濁負荷削減、下水処理水の有効活用による環境改善効果等の検討・
P R < 継続 >

陸域における取り組みを広く市民の方々に向けて P R するため、下水道整備等による汚濁負荷削減、下水処理水等の活用について、取り組み状況や環境改善効果について検討を行いました。

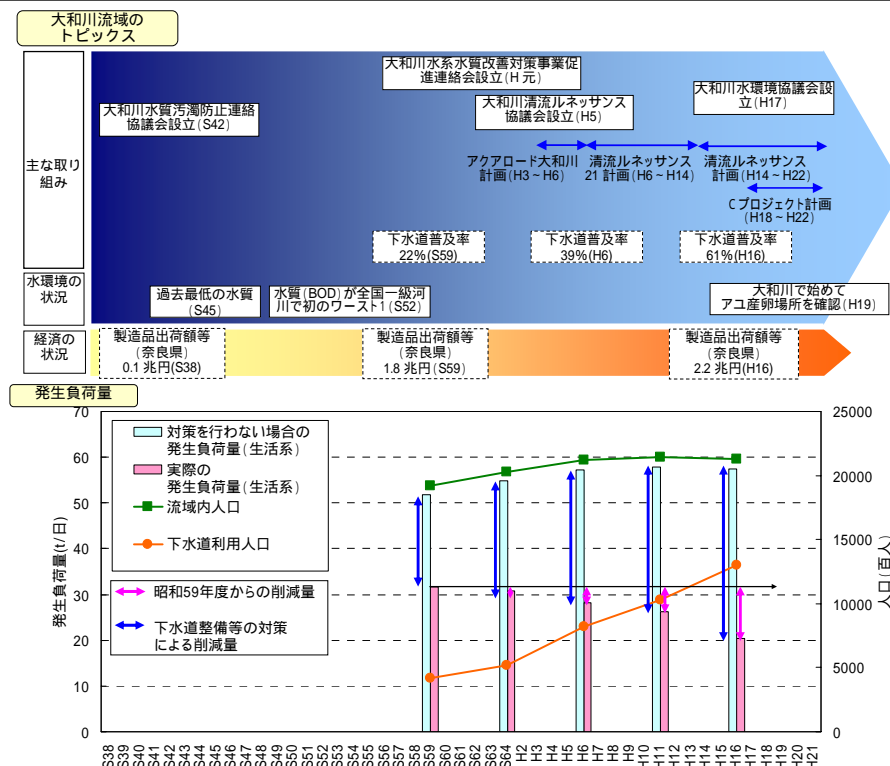
来年度は、森林再生による海域への環境改善効果についても検討を行う予定です。

【下水道整備等による汚濁負荷削減(大和川流域)】

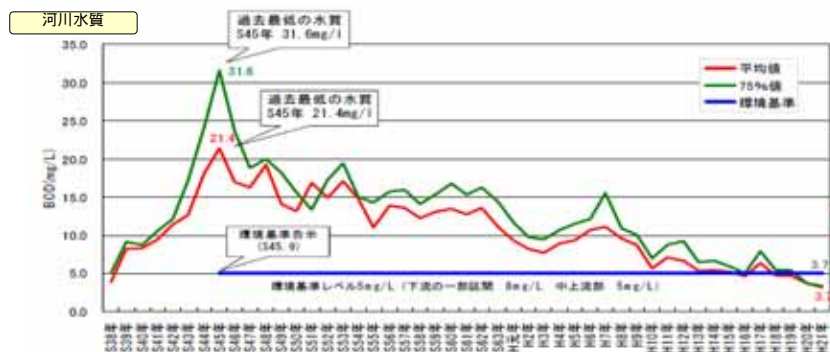
大和川流域では、下水道整備等の生活排水対策を行うことにより、全く対策を行わない場合に比べて 65% (平成 16 年度現在) の汚濁負荷を削減しています。

また、流域内の人口は、平成 16 年度までの 20 年間で 11% 増加しましたが、下水道整備等の生活排水対策の進展により負荷量は 36% 減少しました。

大和川は、昭和 45 年度には過去最低の水質を記録し、昭和 52 年には水質 (BOD) が全国一級河川のワースト 1 になるなど、水質の悪化が進行していましたが、下水道整備等の対策により、平成 19 年度にははじめてアユの産卵場所が確認されるなど、水質が大きく改善しています。



出典) 発生負荷量: 発生負荷量等算定調査報告書 (環境省) より算定



大和川本川 8 地点の平均 (BOD)
出典) 大和川河川事務所 記者発表資料 (平成 22 年 1 月 6 日)

(2) 表彰制度の継続・発展

大阪湾再生に関する活動を表彰する『魚庭の海』賞の募集・選考＜継続＞

大阪湾やその周辺地域で長年にわたり続けてこられた様々な環境保全活動を表彰する、『魚庭の海』賞（第2回）の募集・選考を行いました。今年度は、選考方法を一部見直し、書類選考に加え、二次選考会（プレゼンテーション）による選考を行いました。

来年度以降も継続して実施する予定です。

賞の目的

大阪湾再生行動計画に関わる環境保全活動で顕著な実績を上げた個人または団体等に対して表彰を行い、広く一般に知らしめることで、地域に根ざした活動を一層推進する励みとしていただくとともに、大阪湾再生の取り組みの普及促進を図ることを目的とする。

経緯

平成 22 年 7 月 19 日（海の日）～9 月 30 日募集（応募団体数：10 件）

平成 22 年 12 月 17 日 二次選考会を開催

平成 23 年 1 月 6 日 選考委員会を開催

- ・選考委員会メンバー：委員長（企画部長） 委員 6 名（学識者 2 名、全体 G 長、陸域 G 長、海域 G 長、モニタリング G 長）

- ・選考結果：『魚庭の海』大賞 1 点、『魚庭の海』特別賞 1 点、『魚庭の海』賞 3 点、『魚庭の海』奨励賞 5 点

平成 23 年 3 月 大阪湾再生推進会議で表彰式を実施

表彰後、受賞団体による 10 分程度の活動報告

平成 23 度 第 3 回『魚庭の海』賞を実施予定

(3) アウトカム指標による評価の継続・発展

大阪湾再生に関するアンケート調査を実施【新規】

大阪湾の環境や大阪湾再生の取り組みに対して、住民の方がどのように感じているか、また、取り組みによって意識にどのような変化があったかを把握するため、大阪湾再生に関するアンケート調査を実施しました。

アンケートの目的

大阪湾の環境や大阪湾再生の取り組みに対して、住民（内陸部を含む大阪湾集水域内）がどのように感じているか、また、取り組みによって意識にどのような変化があったかを把握し、6 ヶ年活動報告のとりまとめの参考指標とするとともに、今後の取り組みの参考とする。

主なアンケート項目

- ・大阪湾への訪問回数、場所、目的
- ・大阪湾のイメージ・印象（海の色、におい、近づきやすさ、ごみの量、海と触れあうための施設、海辺の生き物の状況）
- ・大阪湾再生行動計画の認知状況
- ・自由意見（大阪湾の環境について、大阪湾再生行動計画について）

実施状況

- ・実施期間：平成 22 年 7 月 19 日～9 月 30 日
- ・回答状況：配布数 1,407、回答数 575、回収率 41%

結果の概要

- ・大阪湾の環境（海の色、におい、近づきやすさ、ごみの量など）について、最近大阪湾に行っていない人よりも、行ったことがある人の方が、良い印象を持つ人が多い。
- ・概ね 10 年前に比べて、大阪湾の環境は改善したとの印象を持つ人が多い。

(4) 平成 16 年度から平成 21 年度までの活動報告とりまとめの実施

平成 16～21 年度の 6 年間の取組状況等のとりまとめを実施【新規】

「大阪湾再生行動計画」の具体的な目標に対する現在の状況、及び「大阪湾再生行動計画」に基づく様々な取り組みについて、平成 16 年度から平成 21 年度までの 6 年間の実施状況及び今後の実施方針をとりまとめました。

なお、とりまとめ（概要版）については、ホームページへの掲載等を行い、「大阪湾再生行動計画」の P R に活用する予定です。

(5) 広報の強化

“大阪湾の企画展”を開催【新規】

住民の方に大阪湾やその周辺の環境を身近に感じていただき、海の環境を改めて考えていただく機会にさせていただくため、“大阪湾の企画展”を今年度初めて開催しました。

“大阪湾の企画展”の概要

- ・開催期間：平成 22 年 8 月 20 日～29 日
- ・開催場所：「川の駅」はちけんや（大阪市中央区）
- ・来場者数：約 8 0 0 人



“大阪湾の企画展”の様子（写真提供：近畿地方整備局）

(6) 行動計画期間を見据えた取り組みの重点化等の検討

市民参加による流入負荷削減等の検討【新規】

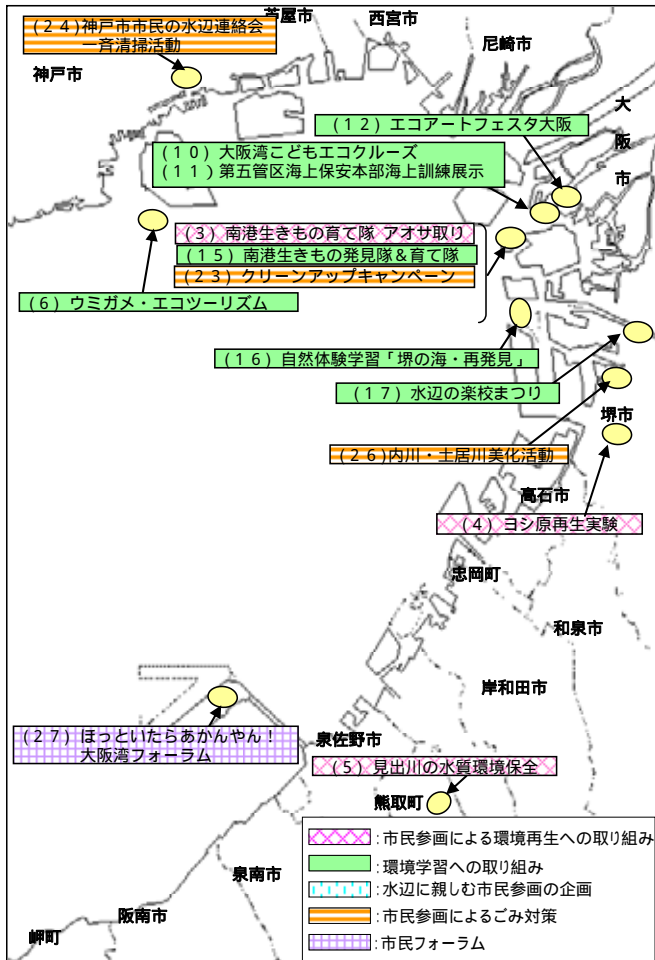
平成 16 年度以降、毎年大和川流域で実施している「生活排水対策社会実験」を他の流域でも展開するための検討を行いました。

3. 市民参画による「大阪湾再生」の元気な取り組み（平成 22 年度の主な取り組み事例）

大阪湾再生に係る市民参画による取り組みとして、環境再生、環境学習、ごみ対策、市民フォーラムといった観点から計 27 件の取り組みが行われました。そのうち、2 つの取り組み（No.2、No.12）について紹介します。

【平成 22 年度の市民参画の取り組みの一覧】

区分	NO.	名称	実施場所
市民参画による環境再生への取り組み	(1)	ボランティア団体等による森林づくり	伊崎国有林(滋賀県近江八幡市)
	(2)	オオクワガタの棲める森づくり	箕面国有林(箕面体験学習の森)
	(3)	南港生きもの育て隊 アオサ取り	大阪南港野鳥園
	(4)	ヨシ原再生実験	石津川水系百済川
	(5)	見出川の水質環境保全	見出川流域
環境学習への取り組み	(6)	神戸空港でのウミガメ保護と環境学習(ウミガメ・エコリズム)	神戸空港
	(7)	親子ふれあい環境教室「海辺の生きもの採集や観察をしてみよう！」	アジュール舞子
	(8)	親子ふれあい環境教室「ウミボタル採集と水族園の生きものを観察しよう！」	神戸市立須磨海浜水族園
	(9)	平成22年度第11回未来に残そう青い海・図画コンクール	-
	(10)	第10回大阪湾こどもエコクルーズ	大阪湾
	(11)	第五管区海上保安本部海上訓練展示	
	(12)	エコアートフェスタ大阪2010	天保山ハーバービレッジイベント広場ほか
	(13)	鴨川探検！再発見！第19～22弾	鴨川
	(14)	河川愛護啓発キャンペーン	東横堀川
	(15)	大阪市サマースクールシティ事業 南港生きもの発見隊&育て隊	大阪南港野鳥園
	(16)	自然体験学習「堺の海・再発見」	堺市周辺の海
	(17)	楽しいんやさかい大和川～水辺の楽校まつり～	大和川左岸の浅香山浄水場周辺
	(18)	第8回みんなで見て考えよう成ヶ島～生石・成ヶ島からの発信～	生石・成ヶ島
水辺に親しむ市民参画の企画	(19)	なぎさ海道ウォーク	大阪湾沿岸一円
	(20)	なぎさ海道の資源登録	大阪湾沿岸一円
市民参画によるごみ対策	(21)	平成22年度第27回大阪湾クリーン作戦	大阪湾一円
	(22)	リフレッシュ瀬戸内	瀬戸内海沿岸(大阪湾沿岸含む)
	(23)	クリーンアップキャンペーン	大阪港
	(24)	神戸市市民の水辺連絡会一斉清掃活動	神戸市内河川等
	(25)	大和川・石川クリーン作戦	大和川流域
	(26)	内川・土居川美化活動	内川・土居川
市民フォーラム	(27)	第7回 ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム	関西空港



大阪湾再生 市民参画の取り組み状況（平成22年度）

(1) オオクワガタの棲める森づくり

大阪府箕面市の「箕面体験学習の森」において、箕面市内の小学校、幼稚園児、ボランティア、地域住民等により、約1年間ドングリから育てたクヌギ、コナラの苗木を山に返す植樹祭等を実施しました。

【場所】箕面体験学習の森（大阪府箕面市）

【主体】林野庁、近畿中国森林管理局、箕面森林環境保全ふれあいセンター

【取り組み状況】

目的：大阪府箕面市にある箕面国有林の「箕面体験学習の森」において、かつての箕面の森を再生する「オオクワガタの棲める森づくり」に取り組む。

実施日：平成22年4月（植樹祭）、5月（大学生植樹体験）、10月（小学生植樹体験）

参加者数：延べ300人

内容：「箕面体験学習の森」において、箕面市内の小学校、幼稚園児、ボランティア、地域住民等により、約1年間ドングリから育てたクヌギ、コナラの苗木を山に返す植樹祭等を実施した。箕面の在来樹種により、里山の再生と生物の多様性の向上を目指す市民参加の森づくり活動であり、全国的に見ても画期的な取り組みである。



植樹祭等の実施状況（写真提供：近畿中国森林管理局）

(2) エコアートフェスタ大阪 2010

大阪港の美観保持と市民への環境啓発をめざし、大阪港のごみなどを使ったオブジェの展示「ごみアート甲子園」、大阪港を周遊する船内で環境学習を実施する「エコツアー」、参加しながら環境について学ぶ「ワークショップ」など様々な企画を実施しました。

【場所】天保山ハーバービレッジイベント広場ほか

【主体】エコアートフェスタ大阪実行委員会（協働：大阪市など）

【取り組み状況】

目的：大阪港の美観保持と市民への環境啓発をめざしたイベント。イベント期間中は様々な企画を用意し、海の環境について考えていただくきっかけを作る。

実施日：平成 22 年 10 月 30 日～11 月 7 日

参加者数：56,600 人

内容：「クリ－ンアップキャンペーン」を起源として、平成 19 年度から、その趣旨に賛同した企業・団体が委員として参画し、実行委員会を組織して運営している。

高校・専門学校・大学などが参加し、大阪港のごみや使用済みペットボトルなど一度はごみとなった素材を使ってアートへと転換させたオブジェを製作、期間中は、会場にライトアップ展示する「ごみアート甲子園」の他、大阪港を周遊する船内で環境学習を実施する「エコツアー」、参加しながら環境について学ぶ「ワークショップ」、企業・団体による環境啓発展示、「稚魚の放流」など、様々な企画を実施する。



エコアートフェスタ大阪 2010 の実施状況（写真提供：大阪市）

4. 大阪湾再生に関する報道状況

新聞、テレビ、ラジオ等において、「大阪湾再生」に関する行政の施策や市民参加の取り組みについて広く報道されています。

以下に示すとおり、平成22年3月から平成23年2月までの1年間に、大阪湾再生に関する報道が計22件ありました。

大阪湾再生に関する報道状況（平成22年3月～平成23年2月）

日付	媒体	タイトル等
2010/3/29	建設通信新聞	大阪湾再生会議 陸域負荷を削減 「魚庭の海」賞も表彰
2010/4/6	読売新聞	「魚庭の海賞」初年度5団体 大賞は西淀自然文化協会
2010/4/18	毎日新聞	【大阪View】大阪湾にアマモを「海のゆりかご」移植
2010/5/2	毎日新聞	森づくり：園児ら、オオクワガタ生息へ植樹 - 箕面国有林
2010/5/24	大阪日日新聞	水質浄化願い稚貝放流 住之江の大和川
2010/6/10	神戸新聞	自然海岸で遊ぼう 西宮・御前浜で生物観察会
2010/6/27	ラジオ大阪	マリコのちょっとおでかけ！新発見 (第1回「魚庭の海」賞大賞受賞団体 西淀自然文化協会の活動紹介)
2010/7/5	奈良新聞	水質改善で金利上乘せ-「大和川定期」を発売 / 大和信金
2010/7/13	産経新聞	関空対岸で11年ぶりにウミガメの産卵を確認 大阪・泉南
2010/7/14	京都新聞	琵琶湖・淀川の水環境知って 大阪の「川の駅」活動伝える展示
2010/7/26	日本経済新聞	めざせ「チリモン」マスター 探してみよう！チリメンジャコに混ざるカニやタコ
2010/8/21	朝日放送	A B Cニュース 「大阪湾の生き物と環境」展覧会
2010/8/21	大阪日日新聞	大阪湾の実態ひと目で 中央区川の駅「はちけんや」「生き物と環境」展
2010/8/23	神戸新聞	大阪湾東部でスナメリ繁殖か 専門家が本格調査
2010/8/24	朝日新聞	大阪湾 たくましき命たち 写真・ビデオ100点展示
2010/8/26	神戸新聞	成ヶ島でふ化 アカウミガメ2匹保護 洲本
2010/8/26	読売新聞	「製鉄ごみ」で海の緑化、漁礁と沈め栄養補給効果期待 鉄鋼各社、藻場づくり活用へ実験
2010/8/27	朝日新聞	夏、恵みの海（NPO法人釣り文化協会主催の生き物調査の紹介）
2010/9/4	産経新聞	関空対岸でウミガメ誕生 大阪・泉南市、11年ぶり
2010/9/30	読売新聞	大阪湾の生物474種 環境再生連絡会 基礎データで活用
2010/12/18	奈良新聞	【大和川】8支川で水質改善 - 国など現状報告
2011/2/1	読売新聞	大阪湾の漁業、再生の試み

媒体	件数(件)
朝日新聞	2
読売新聞	4
毎日新聞	2
産経新聞	2
日本経済新聞	1
大阪日日新聞	2
神戸新聞	3
京都新聞	1
奈良新聞	2
建設通信新聞	1
朝日放送	1
ラジオ大阪	1
合計	22